

# 子どもたちの ボランティア活動をすすめる ガイド

2009

## 豊かな市民性を育むために

### ボランティアとは？

“Volunteer”（ボランティア）のVolには「噴き出す」「飛び出す」という意味があり、ボランティアとは、「火山のように内側から吹き出てくるエネルギーにもとづいて行動する人」がもともとの意味です。

「ほっとけない」「どうにかしたい」と湧き上がる気持ちを行動に移す『自発性』と、社会や他者のためにという『社会性』や『共感』が根っこにあります。100人に100通りのボランティア、というように人びとの多様性や可能性に満ちている活動です。

## Contents

ボランティアとは	1P
学校や地域で取組んでみよう／学校での活動紹介	2P
体験学習をボランティア活動へ発展させよう	4P
子ども向け『体験学習プログラム』紹介	6P
施設訪問・交流のポイント	13P
プログラムを提供しているNPOリスト	31P
こんなサポートがあります。市町村社協ボラセンを活用しよう	37P
沖縄県ボランティア・市民活動支援センターとは	40P



地域の人たちと魚垣を復元する活動を行った白保中の生徒たち。大潮の日の漁の様子。

### どうして子どもたちのボランティア活動をすすめるの？

ボランティア活動は、自分の関心のある活動を自由に選んで行動するものです。そして責任をもって役割を果たし、また次の活動を自分で見つけていきます。活動を通して、人と人との違いや異文化を理解したり、自分の新しい可能性を見出したりします。子どもたちはボランティア活動を通して、「こんな人になりたいな」「こんな社会にしたいな」と豊かな市民性を培っていきます。



マングローブの林に入り、生き物と出会った子どもたち。生き生きとした活動の様子。

### ボランティアは「奉仕」？

ボランティア＝奉仕、ではありません。ボランティアには、街や暮らしをつかっていくのは自分たちであり、決めていくプロセスに参画し、責任も担うという「市民自治」の視点があります。この自発性、自治、双方向の関係性が、奉仕との違いです。

- ボランティア：自発的で社会的な活動。自立した個人が対等な関係をつくる。双方向のコミュニケーションが大事
- 奉仕：仕える。尽くす。一方向。上下の関係。自発的でない場合もある。

## ■学校や地域で取り組んでみよう

Step  
1

「楽しい！」  
「やりたい！」

ボランティア活動の原点は自発的な活動です。「友達がやっているから」「たのまれたから」など、始めるきっかけはなんでもOK。でも、その後自分の「楽しい!」「やりたい!」になっていくかがカギです。そのためには、活動や体験の後に「ふりかえること」が大切。「やった!」という達成感も、「恥ずかしい」「うまくいなくて悔しい」ことがあっても、全部大切な気持ちです。まずは「よくやった」と子どもをほめてあげましょう。よかったところも、できなかったことや失敗したことも大事な経験です。じっくり受けとめて「次はどうしようか」につなげていきましょう。

Step  
2

「どうして？」  
「知りたい！」

ボランティア活動では、いろんな人に出会ったり、いろんなことを知る・直面する面白さがあります。だから、取り組む人の数ほど、多様な「なぜ?」「どうしたらいいの?」という疑問が生まれることでしょう。「知りたい!」と思ったときがチャンス! 自分(またはグループ)で調べてみたり、聞いてみたり、相談したりしていくことで、子どもの自発性や理解、そしてボランティア活動の内容がますます発展し、深まっていきます。学校の授業や教科の学習にリンクさせていくこともできます。

Step  
3

「もっとやってみたい」  
「もっと出たい」

ボランティア活動は、子どもたちの世界を広げていきます。学校生活や家庭だけでは出会えない人たちとの交流がうまれます。学校やクラブ活動、子ども会などで始まった活動も、地域の人たちとつながり、一緒に活動してみるなど広げてみましょう。地域をこえて、国をこえる活動にもつながることがあります。ボランティア活動には、子どもの視野や価値観などの世界を広げる可能性があるのです。子どもも社会の一員であるという「市民」としての実感を得る機会になります。

## ■学校での活動を紹介します!

沖縄県社会福祉協議会では、子どもたちのボランティア活動をすすめる学校を募集し、3年のスパンで指定・助成してきました。各指定校は、市町村の社会福祉協議会やボランティア団体、NPO、地域団体の協力を得ながら、体験学習や活動をすすめています。

**ポイント** ふだんやっている活動を活かしていく。

### 県立名護特別支援学校 (H19~21年度指定、10万コース) \*H21は20万コース

ぼくたち・わたしたちの住む街にとびだそう!  
見たい! 知りたい! 出会い隊!

障がいのある子は「ボランティアを受ける」対象として見られがち。でも、好きなことや得意なことを活かして、ボランティアができるのです。ふだん学校でやっている音楽遊びを地域の宅老所に出かけて一緒に楽しんでいます。何度も出かけて、ともに楽しい時間を過ごすことで、お年寄り子どもたちと触れあい生きる意欲を感じたり、障がいを理解していきました。子どもたちも達成感や自信を得たり、お年寄りを気づかたりしています。また、地域の小学校にも出かけて、劇遊びをリードしながら交流を楽しんでいます。ボランティア活動は双方の関係づくり・地域づくりだと感じています。

**先生の声** ◀ 介護事業所『さくらの郷』への数回の訪問を終えて感じたことは、子どもたちが、あえて何かをやってあげるとか、準備を念入りにするような必要はなく、利用者の方々子どもたちが訪問するだけで心から喜んでくださっているということです。ありのままを受け入れてくださる利用者のまなざしを子どもたちも敏感に取るのでしょうか、『さくらの郷』への訪問を心待ちにしている子どももいます。

とかくせちがらい世の中で、成果を出すことや、効率的に物事を処理する能力だけが求められているように感じられますが、人間が人間として真に存在を認め合えるのは、そうではない面、ボランティアのように人と人が響きあい、受けとめよう、そんな空間の中なのではないかと感じます。

### 県立真和志高校 (H19~21年度指定、20万コース)

真地地域にユイマールの花を!  
ともに笑う毎日が当たり前の社会をめざして

1年目は、視覚障がいや介助の仕方について学んだり、近くにある盲学校の生徒達と一緒にスポーツを体験しました。2年目も盲学校との交流を続けています。また、自分たちが学んだ福祉や介護技術を地域の小中学校に広げていく活動を、グループに分かれて自主企画しました。そのひとつに、夏休みに阿嘉小中学校に出かけて、高校生が小中学生に体験学習を行いました。



▲ガイドヘルパー実習の様子

## ポイント

伝統、自然、文化、言葉、そして人びととの出会い。一緒につくりあげていく。

### 宮古島市立下地小学校 (H18~20年度指定、10万コース)

#### 方言かえうた・方言あいさつ集

地域の社協の協力でデイサービスのお年よりと交流しています。子どもたちがお年よりから方言を学び、1年目は『方言かえ歌』、2年目は『方言あいさつ』をテーマに冊子をつくりました。お年寄りの話に耳を傾けることで、昔はどんな生活をしていたのか、地域の再発見にもつながり、お年よりも子どもたちも互いに達成感を得ていく豊かな活動が生まれました。3年間かけて、じっくりとデイサービスのお年寄りと交流してきた成果から、平成21年度には、学校と社協が話し合い、学校の場所をかりてデイサービスを行う月を設定することにしました。「どの学年も交流できるようにしたい」「お年寄りに負担なく、そしていろんなでかける場所をつくりたい」という双方の気持ちが実を結びました。

### 石垣市立白保中学校 (H18~20年度指定、20万コース) (H21~23年度指定、10万コース)

#### ゆらていく汗・知恵タイム

白保の海で古くから利用されてきた『魚垣』の復元を、地域の方々や自然保護団体とともにを行っています。初年度は魚垣の復元、2年目は漁に使用する網づくり、3年目は網を完成させ、魚垣を手入れし、再び地域の方とともに漁体験を行います。総合的な学習の時間や生徒会活動以外でも、赤土流出防止のための「月桃植栽」などの地域からのボランティアよびかけに、生徒達が楽しそうに参加していくようになりました。また、生徒のほうからも地域のゴミ清掃や花・野菜づくりなど提案・活動もはじまっています。

## ポイント

子どもたちの自発性は「情報の共有と公開」「活動をみんなでふりかえること」「決定過程への参加」のなかでうまれてくる

### 南城市立佐敷中学校 (H18~20年度指定、20万コース)

#### 「やりたい！」を形に！

ボランティア委員会で始まり・終わるのではなく、他の生徒を巻き込んでいく。生徒自身が企画をつくり、会議録をつけ、話し合いがまとまってもまとまらなくても、その記録を各クラスに持ち帰り、他の生徒に伝え、活動に対し興味を持たせ、さらに参加を促しています。最初は受身でも、地域行事の企画運営をまかされたり、NPOとの協働で野菜づくりを行ったりするなかで、どんどん積極的に動いていく姿が目を見張ります。

### 宮古島市立城辺中学校 (H18~20年度指定、10万コース)

#### 地域に根ざしたボランティア活動

ボランティアがあるときは、生徒会より全校生徒に募集を呼びかけます。いつも希望者で定員オーバーなのが嬉しい悩み。年度はじめは、老人会のグランドゴルフ大会のスコアラーのボランティア。同じ班のお年寄りと一緒に写真を撮り、お手紙とともに贈ります。「あの時の子だねえ」。受け取るほうも、贈るほうも顔が見えるので嬉しい交流になり、地域の別のボランティア活動にでかけたときもつながります。運動会には、手紙を受け取ったお年寄りが、わざわざおやつを持って生徒に会いに来て下さると嬉しいできごともありました。

翌年は生徒の提案でスコアラー兼プレイヤーとしても参加。一番はりきったのは、先輩プレーヤーのお年寄りでした。ちょっとした工夫と丁寧さが積み重なり、いきいきとした活動が生まれています。

他にも、活動後にアンケートなどでしっかりふりかえることで、『次はどうしたらいいか』という提案が生徒から出てくるようになりました。また活動募集だけでなく活動報告も生徒会新聞などで生徒全員に知らせています（情報の公開と共有）。それを見て、最初は参加していない子が、次は「やってみようかな」と挑戦する気持ちと機会となっています。

## ポイント

何のために必要な活動で、自分が何ができるのか明確だと、子どもたちは自ら動く！

### 県立ツザ高校 (H20~22年度指定、5万コース)

#### 視覚「障害」について知ろう！

#### 支えあい・学びあう活動を通して

視覚障がいのある生徒を支えることから始まったボランティア活動。教科書は点訳されたものが教育委員会より配布されるが、副教材の点訳はありません。先生の手弁当ではとてもおいつかず、在校生にHELP!を投げかけました。20人以上の生徒が関わるようになり、先生いわく、「一人でやるより仲間がいると全然違う!」。自分が取組む活動が何の役に立つのか、明確にニーズが分かると子どもたちは自ら動く!また、楽しく話をしながら作業するなかで、他のニーズにも目が向きます。「地震で被害を受けたところに何かできないか」など、生徒達のなかからも提案が出てきています。

点訳ボランティア活動中!! ▶



## ボランティア活動と

体験学習は、ボランティア活動への布石となる大事な経験です。しかし、それを「ボランティア活動」と呼ぶことはおすすめしません。ボランティア活動は自発的な意志で行う活動です。ボランティア活動と、教育プログラムである体験学習をきちんと整理・区別して提供してください。

**例えば** 地域の高齢者宅の掃除を先生や地域の社協職員が企画して、「ボランティアしよう」と子どもたちを連れていく。終わった後、「お礼のお手紙を書きましょう」という先生に対し、子どもたちは「なんで掃除をした自分たちがお礼の手紙を出さないといけないのか」と言う。大人たちは「今どきの子どもたちは、失礼な…」と絶句。子どもたちは「ボランティアは掃除をさせられること」と思う。

**ポイント** 学校が企画して、子どもたちにさせる活動は「ボランティア」ではなく、社会活動の体験です。上の例は高齢者支援という体験学習のプログラムです。だから子どもたちには、「ボランティアに行こう」ではなく、「体験学習に行こう」と説明を行い、その目的を共有すべきでした。企画者は地域の高齢者との出会いや交流、役に立つ実感を期待していたのでしょう。そのためには、事前学習や、企画段階から子どもたちが参加するなど、体験を自発性に近づけていくための動機付けが必要です。

## 体験学習をボランティア活動へ発展させよう

体験をするだけでなく、体験をふりかえり、その意味を考え、そこから何を学ぶのか、その学びを何にどう生かすのかを考える作業が大切です。そして学びを次の活動や実社会で活かすことができ、はじめて「体験学習サイクル」が循環します。体験学習サイクルの循環を円滑にするためには「心の安全」が補償された環境が大切です。

### 体験学習サイクル

『体験学習』をボランティア活動へ結びつけていこう！



## 企画の心得 7か条

## 体験学習プログラム

### 1条 企画者自身が意義を信じているか、本気が

主催者（活動を促す人）の本気や思いは子どもたちに伝わります。「仕事だから」「やらないといけないことだから」という意識では子どもたちの共感を得られません。「自発性が自発性を呼ぶ！」

### 2条 何のためにやるのか目的を明確にしよう

何を伝えたいのか、目的を具体的に考えてみましょう。例えば、「環境の大切さを知る」には、地球環境全体に関わる環境汚染の問題から、沖縄の自然の特徴、ゴミ問題などいろんなテーマがあります。漠然としたテーマでなく、具体的な目的を明確にしましょう。

### 3条 目的と取組内容(プログラム)の一貫性が重要

企画しているプログラムの内容が、目的を達成するものとなっているかが大切です。「障がい者理解」ということでアイマスク・車いす体験を行っても、障がいのある人自身と交流したり話をするのがプログラムになかったら…。目的とすることが参加者に本当に伝わる内容や展開になっているかプランを練りましょう。そのためには継続的な展開が必要です。また体験学習で終わらない、自発性につながる視点を大事にしましょう。

### 4条 企画段階から子どもたちが参画できるような工夫をしよう

参加者の自発性や参加度を高めるためには、子ども自身が企画に参加したり、意見が反映されるようにすることも大切です。子どもたちと目的と取組内容を共有することから始めましょう。

### 5条 子ども自身が「選べる」こと

「選ぶ」ということは、自己決定していく大事なプロセスです。複数のコースを設けるなど「選べる」環境をつくりましょう。

### 6条 楽しめること、意欲を持てること

「わくわくする、楽しめること」は実はとても重要です。テーマによってはしんどい内容もあるかもしれません。でも、「取り組んでいる人の言葉から希望を感じた。一緒にやりたい」「参加者やスタッフと何でも話せて楽しかった」など、「楽しい」テーマでなくても、楽しくできることがあります。

### 7条 終了後、ふりかえりを行う

子どもたち、企画者、ともにふりかえりが大事です。子どもたちが「うまくいかなかった、できなかった」という経験も大事にしましょう。次はどうしたらいいか・どうしたいか、そのため何ができるか一緒に考えることで、次の活動につながります。また、企画者にとっても、自分たちの伝え方、内容についてふりかえることで次のプログラムに反映させることができます。

## よくある「体験学習」プログラムを見直してみよう

以下は、学校現場をはじめ、地域でも「ボランティア活動」として取り組むことの多い「体験学習」です。どのテーマもそれ自体が目的ではなく手段です。そもそも何が目的なのか、課題への視点、取り組み方を振り返ることが必要です。各テーマごとに関連する「県内のおすすめNPO」も記載しています。これらのNPOにプログラムの展開の仕方など具体的に相談することもできます。

テーマ・現状 ※おすすめNPO	課 題	以下の視点で、何が目的なのか確認してみよう！
<b>クリーン作戦</b> 「ゴミ・ゼロ作戦」「清掃活動」などの活動。地域や学校、海浜などのゴミを拾ったり、清掃することが多い。 ※沖縄リサイクル運動市民の会 (P.34) / 佐敷干潟と遊び学ぶしあわせまねきの会 (P.34) / しかたに自然案内 (P.34)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ゴミを拾うことだけが目的化している。</li> <li>● ゴミを拾って終わりではなく、その前後の展開が重要。</li> <li>● 「どうして、こんなところにこんなゴミがあるのか」という興味・関心を次につなげきれていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 海浜や河川など自然環境のすばらしさや生態系の仕組みと、ゴミがあることでどのような影響があるのかを知る。</li> <li>● 現状理解。何がどうしてゴミとなっているのか（消費生活の問題、商品に対する見方）、ゴミの環境への影響を知る。</li> <li>● 自分の暮らしとのつながりを知る。</li> <li>● できることは何か考える。</li> <li>● グリーン・コンシューマー、環境を長いスパンでとらえる。</li> </ul>
<b>花いっぱい運動</b> 土と堆肥、種、プランターを買って草花を栽培することが多い。育てやすい植物、見た目「美しい」植物を育てることが多い。苗を買って咲き終わったら処分している。 ※(特活)エコ・ビジョン沖縄 (P.31)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 沖縄の在来種にはないものを栽培することが多いため、もともとある生態系を壊しかねない。</li> <li>● 水道水、土や堆肥は購入、咲き終わったらゴミとして処分するの繰り返しでは自然環境を守ることはならない。</li> <li>● 緑化の背景には地球温暖化、CO<sub>2</sub>、乱開発の問題が根底にある。緑を増やすことが緑化というのは短絡的。</li> <li>● 自然観を育むには、海、山、川も含めた地域の自然環境全体への関わりが必要。</li> </ul>	「花いっぱい」は目的ではない。手段。何が目的なのか整理し、その目的のために効果的な手段であるか確認する。 <b>【環境教育】</b> 人間活動により発生する問題（廃棄物・ゴミ・CO <sub>2</sub> ・開発）と、地球上の野生生物・自然環境の激減の問題などのテーマがある。 <b>【理科教育】</b> 植物・生物の育ち方や機能を知ることが目的。栽培後食べれる「野菜」の方が、生命の循環を体感できるので教育的。 <b>【情操教育】</b> 美しさは主観。「これがいい」と無批判に価値観を押し付けていないか工夫が必要。
<b>国際理解と募金活動</b> 「飢餓」「貧困」など様々な国の子どもたちの状況を学んだり、国際理解や開発をテーマにした活動。 ※(特活) 沖縄NGOセンター (P.32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「飢餓」「貧困」の現状について知らせているが、どうしてそのような状況になったのか、そのことに私たちの暮らしがどう関わるかの視点が欠けていないか。</li> <li>● 支援・援助とは何か議論が必要。安易に募金や物を送る支援だけを行っていないか。社会構造への視点がないと「恵んでいる」ことに終始してしまう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 人間の尊重と、世界には多様な文化があり、共生していくことを理解する。</li> <li>● 私たちの暮らしが、世界とつながっている構造を理解する。</li> <li>● 問題だけでなく原因を知る。飢餓や貧困は、その国だけの問題ではなく、私たちの国のあり方や暮らしと関わっていることを理解する。</li> <li>● 「物」を送る際には、相手が必要としていて受け入れているところがあるか、条件は何かを送る側がきちんと把握すること。</li> <li>● 募金については、何のために誰がどのように使われ、これまでどう報告されているか確認すること。</li> <li>● フェア・トレード（公正な貿易）</li> </ul>
<b>アイマスク・車いす体験</b> 「障害者理解」のための体験として取り組むことが多い。 ※沖縄福祉教育研究会 (P.33) / わくわくSTT (P.36)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「できない」体験で終わっているのでは。「違い」や「多様性」の理解につながる展開が必要。</li> <li>● 障害を理解するだけでなく、障害のあるその人個人「〇〇さん」との出会いとなっているか。</li> <li>● 自分の身近な、障害のある人との関係が変わるか（学校で障害理解を行ったことで、養護学級の子どもたちと仲良しになったか）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 障害の「できないこと」だけでなく、障害のある人自身の生き様、できること、秀でている面も理解する。</li> <li>● 「違い」を大事にする。</li> <li>● その方自身と出会っていく。</li> <li>● 「～してあげる」ではなく、「ともに生きる」という視点から、まちづくりを見直す（バリアー・フリー・チェック）</li> <li>● 1回の講話や体験では相互理解はむずかしい。継続的な展開が重要。</li> </ul>
<b>お手紙や、施設訪問</b> 高齢者理解として、地域のお年よりに年賀状やプレゼントを送ったり、施設訪問、高齢者疑似体験などが多い。 ※市町村社会福祉協議会のボランティア担当 (P.38、39)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「できない」体験に終わると、「してあげる」関係になってしまう。</li> <li>● 一方通行の交流になりがちではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 年齢を重ねてきたその方々の知恵や、歴史を知る。（昔遊び、地域の歴史、経験した話など）</li> <li>● 双方向の交流、出会い、関係性をつくる。</li> <li>● 1回の講話や体験では相互理解はむずかしい。継続的な展開が重要。</li> </ul>

# 体験学習

## プログラム 一覧表

多様なテーマで、ボランティア活動や体験学習に取り組むことができます。地域の社協やNPOなどの人材やプログラムを活用することで、子どもたちたちの視点も経験も広がります。

ここで、ご紹介するプログラムは、一見ボランティア活動とは関係しないように感じるかもしれません。でも、どれも子どもたちの自発性や社会性を促し、新しい物の見方や気づきをうながしていくものです。1回きりの体験学習で終わらず、その後、子どもたちが自ら考え、どのように行動し、実践していくことがツボ！ボランティア活動の糸口にぜひ活用してください。

### ボランティア入門 ..... P.8

- ①ボランティアって何？ 入門講座
- ②ボランティア活動を企画してみよう！ 実践講座
- ③ボランティア活動をふりかえってみよう

### 福祉・健康 ..... P.10

- ①地域のバリアフリーチェック
- ②地域の福祉マップ作成体験
- ③スポーツを通じた障がい者理解ワーク  
～車いすサッカーを体験しよう～
- ④「あなたにその音見えますか」  
サウンド・テーブルテニス&暗闇体験交流会
- ⑤障がいを理解するためのワークショップ
- ⑥リクエストセミナー  
(高齢者疑似体験・車いす体験)
- ⑦自閉症の疑似体験
- ⑧薬物依存症からの回復と援助
- ⑨食べ物を大切に

### 学習支援 ..... P.14

- ①実践能力育成と学習サポートボランティア
- ②中高生が行う学習援助ボランティア

### 人権・コミュニケーション ..... P.16

- ①ボランティアする前に・・・  
小学生のための人権教育プログラム
- ②ボランティアする前に・・・  
中高生のための人権教育プログラム
- ③ハンセン病問題を学び  
差別と人権について感じ、考える！
- ④ジェンダーでカラダとココロの元気を考える！
- ⑤小学生のためのジェンダー多様性ワークショップ
- ⑥中高生のためのジェンダー多様性ワークショップ
- ⑦だれもが持つ「人権」について考える
- ⑧モラルってなんだろう??
- ⑨性の健康教育 低学年向け～
- ⑩性の健康教育 中高学年～

### 国際理解 ..... P.19

- ①世界がもし100人の村だったら
- ②地域にひろがれ！地球市民教育  
(国際理解教育)
- ③貿易ゲーム
- ④地球家族を考える ～フォトランゲージ～
- ⑤島人(しまんちゅ)の宝を探せ  
～ウェビングを通して～
- ⑥パーム油のはなし  
～「地球にやさしい」ってなんだろう～
- ⑦たずねてみよう！カレーの世界
- ⑧国際協力活動講座
- ⑨もっと知りたい、アジアの友達だちのこと
- ⑩甘いチョコの苦い現実
- ⑪もっと知ろう!!  
バナナから見える世界と私たちのつながり

🌿 環境・自然体験Ⅰ ..... P.22

- ①海辺の自然観察
- ②干潟の生き物しらべ
- ③干潟のごみしらべ
- ④美ら海クリーン体験
- ⑤発見・体験・出会い・地球人をめざそう  
「大人と子どもの自然学校」

- ⑪丸太切りジグゾーパズル
- ⑫古着裂き布織り体験
- ⑬廃油DEキャンドル
- ⑭ホテルの観察会
- ⑮野草を食べよう
- ⑯アルミ缶ごはん
- ⑰清流トレッキングと滝つぼ遊び
- ⑱ヌチシヌジガマ体験

🌿 環境・自然体験Ⅱ ..... P.24

- ①学校エコアクションプログラム
- ②食べ物世界地図づくり
- ③環境教育プログラム「買い物ゲーム」
- ④ゴミを考えるワークショップ
- ⑤エコクッキング
- ⑥地球温暖化のヒミツを探れ!
- ⑦自然をたのしく学べるプログラム
- ⑧森の指令ゲーム
- ⑨ビオトープ観察会
- ⑩端材でアート(アーチ作りに挑戦)

🎵 文化・芸術 ..... P.28

- ①みんなで乗馬体験
- ②まるごとウマ体験ワークショップ
- ③学校音楽鑑賞会はこんなに楽しい!
- ④音楽たのしみ隊
- ⑤むかし集団遊び
- ⑥竹とんぼづくり
- ⑦カーブヤードづくり
- ⑧光る泥だんご作り
- ⑨外で作る手作りアイスクリーム
- ⑩たき火パン

7 体験学習プログラム

P8からのプログラム紹介と一覧の見方は.....

分野名とマーク

🌟 プログラムを提供する人の想い..... 🌟

プログラムを実際に提供している人からのメッセージを頂いています。想いを感じてください!

🌟 プログラム一覧

その分野のさまざまなプログラムの一覧です。提供する団体もプログラムごとにかわることが多いです。団体の紹介や連絡先はP31~をご覧ください。

📖 プログラムの一場面

次ページのプログラム一覧の中から、ひとつプログラムをとりあげて(★マークのもの) そのプログラムの一場面を紹介しています。

### 🌟 ボランティア入門

🌟 プログラムを提供する人の想い..... 🌟

**🌟 ボランティア入門**

🌟 プログラムの一場面

🌟 ボランティアって何? 入門講座

🌟 先生の声

🌟 ボランティアは出会いと広がり

### 🌟 ボランティア入門 プログラム一覧

プログラム名 (団体名、提供紹介のページ)	概要	▶対象年齢 ▶参加費 ▶所要時間 ▶所要人数 ▶注意事項	▶提供できる効果
1 ボランティアって何? 入門講座 (協・市野村協議、P.28~39~40)	ボランティアとは何かを体験し、自分ができるボランティアの活動を体験できる入門講座。「ボランティア」はみんなが知っている言葉だけれど、いざ実践しようとするとなかなか難しい。ボランティアは「私生活」の時間からほんの100分おきの活動がある。ボランティアについて共通理解をくくりながら、ボランティアの持つ多様な可能性を感じる講座。	●10~40歳 (1クラス) ●1時間から ●参加費なし ▶都合次第が必要	・活動に取り組み前の不安感を取り除く、意欲が湧く。 ・何のために何を行うのか目的意識を共有することが出来る。 ・活動した後のやりかたの振り返りや今後の活動の方向性について話し合うことで、不安を取り除き、自信と意欲が湧くことが出来る。
2 ボランティア活動を企画してみよう! 実践講座 (協・市野村協議、P.38~39~40)	「やってみたいこと」「できること」を考え、見つけていく実践ワークショップ。グループで話し合いしながら、「思い」を話し合い、企画していく。行動に移していくためのプランを立案する。	●10歳以上 ●中学生以上 ●20分 (2時間必要) ▶参加費なし ▶事前に入門講座を行うこと、打ち合わせが必要	・グループで考え、一人で出来ないポイントや考えを深めることができる。 ・コミュニケーションや仲良くするには、思いを共有することで、不安を取り除き、自信と意欲が湧くことが出来る。
3 ボランティア活動をふりかえってみよう (協・市野村協議、P.38~39~40)	ボランティア活動の振り返りを通して、今後の活動の方向性を考える。これまでの活動をふりかえり、今後の展開をもう一度確認し、発展させていく活動の場です。マンネリや心当たりを共有し、新たな活動の方向性を考える。また、活動を通して、もっと深まり発展させたい、新しいものに挑戦したいという思いを共有しよう。	●10~40歳 (1クラス) ●1時間以上 ●20分 (2時間必要) ▶参加費なし ▶事前に入門講座を行うこと、打ち合わせが必要	・活動をふりかえり、もう一度意欲を高める。 ・これまでやってきたことを振り返り、今後の展開を考えることができる。 ・みんなが話し合ったり、協力し合うことで、やるべき活動、伸ばす活動を考えることができる。

🌟 おすすめ情報!

🌟 先生の声

🌟 ボランティア活動を紹介するビデオ!

🌟 先生の声

🌟 ボランティア活動を紹介するビデオ!

関連する参考情報です

🌟 他にもこんなコラムがあります。

**先生の声** プログラムを体験したり、ボランティア活動に取り組む先生の声です。

**体験後の子どもたち** プログラムを実施した後の子どもたちの様子や変容を伝えます。

**ちょっと考えてみよう** ぜひ立ち止まって振り返ってほしいこと、子どもたちと学ぶ前に考えてほしいことがあります。その分野に取り組むNPOだから見える視点です。



# ボランティア入門

## プログラムを提供する人の想い……



▲ 山城雅文さん

(うるま市社会福祉協議会  
ボランティアコーディネーター)

### 住みよい社会づくりを支える地域でのボランティア活動！

ボランティア・市民活動は私たちが暮らす社会を、だれもが暮らしやすいよりよい社会に変えていこうとする、とても大切な意義のある活動です。感受性豊かで多感な小・中・高校生の時期に、ボランティアや市民活動の体験を行うことで、自分たちが暮らしている社会のさまざまな物事に目が向いていきます。そして問題点に気づき、良くしていこうと行動できる市民に育っていきます。また、ボランティア活動により、地域の多くの方々と関わることで自らのアイデンティティを確立していくことにもつながっていきます。

## プログラムの一場面

### ★ボランティアって何？ 入門講座

『ボランティア』という言葉の語源や意味を説明しながら、地元や国内外でボランティア活動を行っている方や団体の紹介をします。

また、子どもたちが「私ができる・やりたいボランティア活動」は何かを考え、実際に『ボランティア活動』の体験を行うことで、今後の自発的なボランティア活動につなげていきます。

『ボランティア』について対象となる学年にあわせた様々なアプローチで説明・グループワークを行います。学習・体験を通して自発的なボランティア活動につなげていけるように、担当の先生方とも相談を行いながらプログラムを作り進めていきます。

講座を受けた中学生は、漠然としたボランティア活動を具体化することで「ボランティアは人から頼まれたからやるのではなくて、自分から進んでやること」だと気づき、どのようなボランティア活動をしたらよいか迷っていた生徒達が、「使用済み切手の収集」や「ふだん使っている通学路や海岸の清掃」「お年寄りの介護をしたい」「得意な三線の演奏をしたい」など生徒自身で様々なボランティア活動を見つけました。



## 先生の声 ボランティアは出会いと広がり 嶺井さくら 教諭 (H16~20年度佐敷中学校在任)

佐敷中学校に勤務して5年、ボランティア委員会を担当することになり4年。そして、県社協のボランティア活動推進校の指定を受けて3年。1年1年が本当に、私自身の成長の年でした。初めて担当となった年は、「ボランティア？」と悩み、子どもたちに「どんな活動をさせようか」と考えていました。しかし、子どもたちと活動内容の企画や運営方法を一緒に考えていくなかで、子どもたちのアイデアの斬新さや、その行動力に圧倒され、私自身が学ぶことの方が多いのだと気づかされました。そして、いつしか子どもたち自身が後輩に活動の面白さを伝え、自然に仲間を増やしていくことができるようになり、今の佐敷中学校のボランティア委員会があります。なかには、高校へ進学しても地域の中で活躍する子や将来の夢につながる活動をしている子もいます。



きっかけは、県内の様々なNPOを知り、まずは話し合うことから始まりました。地域の社会福祉協議会の方にもコーディネートしていただいて様々な活動の幅がひろがりました。学校の現状を把握して活動計画を一緒に立てていただき、子どもたちは学校の教師以外の「先生」から多くを学んだと思います。多くの人と出会い交流することで、私が変われたこれらの活動を子どもたちと共にさらに広げていきたいと思っています。

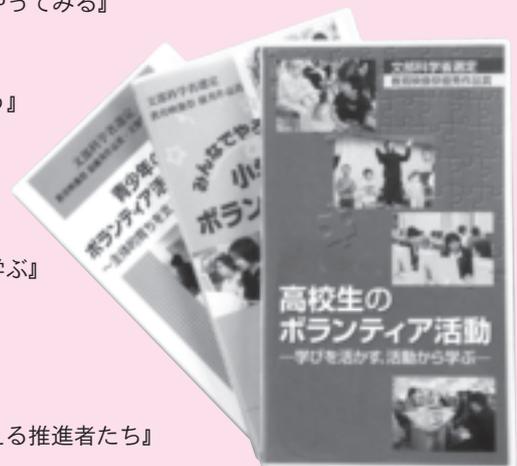
## ボランティア入門＊プログラム一覧

プログラム名（団体名、団体紹介のページ）	概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<b>1</b> ボランティアって何？ 入門講座 （県・市町村社協、P.38・39・40）	★ ボランティアとは何かを理解し、自分ができるボランティアを見つけるための入門講座。「ボランティア」はみんなが知っている言葉だけど、いざ説明しようとするとうずかしい…。ボランティアは「私発！」の行動だから100人に100とおりの活動がある。ボランティアについて共通理解をつくりながら、ボランティアの持つ多様性と可能性を感じる講座。	■10～40名（1クラス） ●1時限から ★経費は応相談 ※打合せが必要	・活動に取り組む前の不安感を取り除き、意欲が育つ。 ・何のために行うのか目的意識を持つことができる ・活動した後のふりかえりの大事さを知る。 ・体験学習との違いを知り、ボランティア活動につながる視点を学ぶ。
<b>2</b> ボランティア活動を企画してみよう！ 実践講座 （県・市町村社協、P.38・39・40）	「やってみたいこと」「できること」を考えたり、見つけていく参加型ワークショップ。グループで話し合いをしながら、「想い」を出し合い、企画していく。行動に移していくためのプロセスを経験する。	■10～40名（1クラス）、中学生以上向き ●90分（2時限は必要） ★経費は応相談 ※事前に入門講座をうけていること。打合せが必要	・グループで考えることで、一人では気づかない視点や考えを深めることができる。 ・コミュニケーションや仲間づくりになる。 ・想いを出し合うことで、不安を取り除き、自信と意欲を持つことができる。
<b>3</b> ボランティア活動をふりかえってみよう （県・市町村社協、P.38・39・40）	生徒会や部活動、行事などで「ボランティア」として行っている活動。これまでの活動をふりかえり、今後の展開をもう一度確認し、発展させていく参加型の講座です。マナー化や必要性がわからなくなったりしているものをもう一度考え直して、もっと深めたり発展させたり、楽しいものに変えていくために一緒に考えましょう。	■10～40名（1クラス）、中学生以上向き ●90分（2時限は必要） ★経費は応相談 ※事前にボランティア入門講座をうけていること。打合せが必要	・活動をふりかえり、もう一度原点を確認する。 ・これまでやってきたことを確認し、今後の展開を考えることができる。 ・みんなで話し合ったり、確認していくことで、やめる活動、伸ばす活動を考えることができる。

### おすすめ情報！ ボランティア活動を紹介するビデオ！

子どもたちは、同じ世代の子どもたちの活動を見て「こんな活動もあるんだ」「これもボランティアなんだ」「私にもできそう」と想像力が広がります。教師、保護者、地域の方々など支援者向けのビデオもあります。所要時間20分と見やすい内容です。

- 小学生シリーズ：『まちに出ようボランティア学習～考える・見つける・やってみる』  
『はじめよう ボランティア学習』  
『みんなでやろうよ・小学生のボランティア活動』
- 中学生シリーズ：『中学生のボランティア活動・できることからはじめよう』  
『中学生のボランティア学習マニュアル』  
『魅力あるプログラムづくり』  
『地域でボランティア学習』
- 高校生シリーズ：『高校生のボランティア学習マニュアル』  
『高校生のボランティア活動～学びを活かす、活動から学ぶ』  
『心響きあうまちに～高校生の目で見えたバリアフリー』
- 支援者向け：『教師のためのボランティア学習マニュアル（中学）』  
『豊かな心を育てる体験活動～地域と連携する学校』  
『親子で学びあうボランティア活動』  
『青少年のボランティア活動のすすめ～主体的育ちを支える推進者たち』  
『大人の居場所づくり～地域に根ざすボランティア活動』



※沖縄県ボランティア・市民活動支援センターのビデオライブラリで所蔵・貸出（無料）しています。遠隔地にも郵送で貸出します（ただし送料はご負担ください）。



## 福祉・健康

### プログラムを提供する人の想い……



▲ 比嘉信子さん

(沖縄福祉教育研究会 代表)

### いっしょに街を歩きませんか

私達は、お年寄りや障がいを持つ人など全ての人が安全で安心して暮らせる町を実現するため、障がい当事者による福祉講話や車椅子体験及びアイマスク体験、バリアフリーマップ作成等の体験活動を通して、思いやりの心で全ての人が共に生きていける福祉社会を目指しています。

誰もが安心して安全な生活を望んでいます。しかし、複雑化する現代社会ではその思いと相反する出来事が連日のように起こっています。今こそ、共に生きる事・思いやりの心等の大切さが問われていると思います。とくに将来を担う子どもたちの中に思いやりのあるやさしい心が育つことを大切にしたいと思います。

### プログラムの一場面

#### ★地域の福祉マップ作成体験

バリアフリーチェックや車椅子・アイマスクなどの体験は、福祉マップ作成と連続させることで、幅の広い効果が期待できます。例えば、車椅子体験の良さは「バリアがあると大変だ」と共感できることです。街に出てバリアフリーチェックを体験すると、障がい者のおかれている現実社会を目にします。でも、ここまでは「大変なこと」が「分かった」に留まります。

しかし、重要なのは「なぜ大変なのか」「どうしたらいいのか」「問題はどこにあるのか」を考えていくことです。体験後にグループで福祉マップを作成する過程では、一人ひとりの気づきをみんなで共有し、みんなの問題意識へと発展していきます。障がい者が大変なのではなく、だれにとっても暮らしやすい社会をともにつくっていかうと視点が変化するのです。それは街づくりへの参画であったり、障がい者の人権を自分のこととして考えることにもつながっていきます。

大切なポイントは、障がいを持つ者がアドバイザーとして参加すること。子どもたちが抱く疑問や質問へ適切に答えることができます。



▲ スーパーで買い物体験



▲ マップづくりで話しあい

### 体験後の子どもたち……

福祉マップを作成した高校生たち。障がいのある当事者とともに街を歩き、チェックして、写真を取り、マップに落とし、どうしたらいいのか提案を検討しました。子どもたちは、今の自分達にもすぐにできることとして、路上駐車や障がい者専用駐車場への迷惑駐車をしないよう身近な大人に進言する、あるいは近い将来大人になったら迷惑駐車はやらないことを言葉にしました。

さらに、特に問題となった所を、行政へ直接解決を要請することにし、文書を作成して町長へ直接提言しました。体験学習が活かされ、バリアフリーの必要性に加え、自分たちの住む地域の福祉の大切さや社会の仕組み等への関心も高まった結果です。

このプロセスは、障がいのある人と、友達と、先生と、自分の感じたことを言葉にして相手の感じていることや意見を聞き、議論し、思いをつなぐ協働作業の経験でもありました。



▶ 嘉手納町長へ『バリアフリー調査の整備に関するお願い』を手渡す嘉手納高校生たち

プログラム名（団体名、団体紹介のページ） 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>1 地域のバリアフリーチェック</b> (沖縄福祉教育研究会、P.33)</p> <p>障がい者と一緒に地域を歩きながらバリアフリーチェックを行います。障がい者の外出機会を実際に体験するので、地域で暮らす障がい者の現状の一端を知り、自分たちの住む身近な環境について考えるきっかけとなります。また、一緒に活動するので、顔の見える関係ができ、楽しい時間を過ごせます。</p>	<p>■ 5～10名、10～20名、または1クラス（30名程度） ●★時間、経費は応相談 ※障がい当事者の方から、実施前後を含めて相談・アドバイスをもらうことができる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バリアフリーに対する知識を深めることができる。</li> <li>・日常的に障がい者や高齢者のお手伝いができるようになる。</li> <li>・一緒に地域を歩く楽しみや問題点が共有できる。</li> </ul>
<p><b>2 地域の福祉マップ作成体験</b> ★ (沖縄福祉教育研究会、P.33)</p> <p>バリアフリーチェックや車椅子体験、アイマスク体験等の成果を踏まえ、障害者福祉の視点から学校周辺や地域の状況についてマップに描きます。作成後は、マップ作りの趣旨と問題・課題についてグループ発表します。障がい当事者からアドバイスを受けながら作業を行うことができるので、障がいへの理解と併せて効果は大きいです。</p>	<p>■ 5～10名の少人数単位で、グループの数は4～5程度が適当 ● 2時間×2回（応相談） ★経費は応相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学習のふりかえりとその成果（障がいの理解、福祉の関心）のバロメーターとなる。</li> <li>・福祉の視点から住み良い地域社会へ関心が芽生える。</li> <li>・マップづくりはグループによる協働作業のトレーニングになる。</li> </ul>
<p><b>3 スポーツを通した障がい者理解ワーク 車イスサッカーを体験しよう</b> (沖縄県車イスサッカー協会、P.32)</p> <p>当事者を含むスタッフ6名による車イスサッカーを実演した後、子どもたちも4名一組になって車イス操作を体験し、大きなサッカーボールに触れます。その後、チームに分かれて試合開始を行いふりかえります。体験した感想や質問、障がいがあってもできるスポーツについてやりとりを行います。</p>	<p>■ 20～30名（1クラス） ● 120分 ★ 14,000円 ※メンバーによる講話や、毎年12月に開催する車イスサッカー大会への参加も提供できます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいを持つ人を身近な存在に感じることが出来る。</li> <li>・障がいの「できない体験」ではなく「できる体験」をすることで、障がいに対する肯定的な理解を育てる。</li> <li>・楽しみながら、体験学習を行うことができる。</li> <li>・問題意識を持つことにつながる。</li> </ul>
<p><b>4 サウンドテーブルテニス&amp;暗闇体験交流会 「あなたにその音見えますか」</b> (わくわくSTT、P.36)</p> <p>生徒・教師・視覚障がい者・ボランティアが一緒になって、サウンドテーブルテニス（STT）を通して交流を行います。真剣に競技を競いながらも楽しいひと時を過ごします。また、暗闇の部屋で、視覚障がい者に誘導してもらいながら、暗闇を体感します。視覚障がいの日常を体感したり、明るい場所で忘れていた別の感覚を呼び起こします。</p>	<p>■ 5～40名 ● 約180分 ★経費は応相談 (遠隔地は交通費は別途) ※対象人数により時間が異なる。視覚障がい者3名、晴眼者3名、計6名のスタッフ ※視覚障がいについての情報収集や、アイマスク・ガイドの体験学習をやっているとより効果的</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・視覚障がい者の誘導や、お茶の提供等、無意識のうちにボランティアをする（見る）機会になる。</li> <li>・社会のバリアを除去する必要性を気づく。</li> <li>・一緒に汗を流すことで、お互いの交流になり、障がい者と自然にふれあえる。</li> <li>・障がい者を個人として意識するきっかけになる。</li> </ul>
<p><b>5 障がい理解するためのワークショップ</b> (県・市町村社協、P.38・39・40)</p> <p>「1分間ゲーム」「出会いのじゃんけん」「おもいやりのいす取りゲーム」「目隠しじゃんけん」「集合ゲーム」などのゲームを通して、障がいや違い、福祉について学ぶワークショップ。</p>	<p>■ 15～40名（1クラス単位） (小学校4年生以上) ● 90分 ★経費は応相談 ※年間計画の企画や継続的な取り組みについて企画段階から相談にのります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「違い」を理解し、個を尊重する視点に気づく。</li> <li>・「障がい者はかわいそう。助けてあげよう」という固定的な福祉観を乗り越える。</li> </ul>

プログラム名（団体名、団体紹介のページ） 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>6</b> リクエストセミナー（高齢者疑似体験・車いす体験） （沖縄県介護実習・普及センター P.32）</p> <p>高齢者疑似体験：体験キッドを装着して、階段を上ったり、コップで飲み物を飲んでみたり、寝転んだりとお年寄の体験をします。</p> <p>車いす体験：実際に車いすに乗り、自分で坂道をこいだり、介助して段差を登ったり降りたりして体験します。</p>	<p>■20～40名（1クラス単位） （小学校4年生～高校3年生、専門学校・企業等）</p> <p>●2時間～2時間30分</p> <p>★経費は応相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の気持ちになって考えて行動することの大切さを感じる。</li> <li>歳を取ることや体に障がいが起こることも決して他人事ではなく身近に起こりうることを実感できる。</li> <li>疑似体験を通して体で感じて考えることができる。</li> </ul>
<p><b>7</b> 自閉症の疑似体験 （自閉症児者親の会まいわーど P.33）</p> <p>一見わかりにくい行動をする自閉症のある人たち。どうして変わった行動をするのか、自閉症の立場になってものの見方感じ方を体験します。自閉症すごろくと〇×クイズ付き。見え方・聞こえ方・ことばの理解の仕方、独特の感覚を体験してみることで自閉症を理解することが楽しくなります。</p>	<p>■30～50名 （小学校高学年から）</p> <p>●2時間</p> <p>★経費は応相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自閉症の特性を理解することができる。</li> <li>誤解や偏見を取り除くことができる。</li> <li>自閉症のある子と仲良くなれる。</li> <li>上手に遊べるようになる。</li> </ul>
<p><b>8</b> 薬物依存症からの回復と援助 （沖縄DARCリハビリテーションセンター、P.33）</p> <p>薬物依存症からの回復と援助をテーマにした講演、薬物依存症をテーマにした寸劇、薬物依存症者本人たちによるエイサー演舞等を行います。当事者が伝えることで、薬物依存の怖さだけでなく、依存症になること、回復しようとするものの両面を具体的に知ることができます。</p>	<p>■何名でも可</p> <p>●1時間前後</p> <p>★経費は相談にのります</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>薬物依存症は、意志や性格の問題ではなく、病気であることを知る。</li> <li>当事者の話をきくことで、薬物に依存することの怖さやつらさを知る。</li> <li>回復する場と仲間の手助けによって回復が可能であることを知る。</li> </ul>
<p><b>9</b> 食べ物を大切に （フードバンクセカンドハーベスト沖縄、P.35）</p> <p>食べ物が日本でどれくらい捨てられているのかを、クイズや質問を出しながらデータや重さで実感します。また一方で毎日の食事に困っている人がいることを知り、フードバンクがどのように活動しているのかなど、食べ物の大切さを学びます。</p>	<p>■1クラス～学年単位 （小学生～高校生）</p> <p>●1時間半</p> <p>★経費は応相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>捨てられている食べ物のことを知ることで、食べ物を大切にする気持ちを育むことができる。</li> <li>年齢に関係なく、個々ですぐにフードバンク活動を実践できる。</li> </ul>

子どもたちが高齢者や障がい者などの施設に出かけて交流する企画はよくあります。実際に子どもたちを受け入れている施設へ、コーディネートする社協、先生と一緒に出かけ、話を聞きました。

【今回の訪問先】小規模多機能事業所きゃ〜ぎ

- 所長：松原静子さん ■ スタッフ 13名 ■ 利用者の方：20名
- 連絡先：宮古島市城辺字長間 1419-1 電話：0980-74-4007
- 地域の小中学校の子どもたちが福祉体験や交流などできたり、逆に「きゃ〜ぎ」から学校へ利用者の方とでかけたりしています。学校の帰りに寄って遊んでいく子どもたちもいて、利用者の方も気軽に話しかけたりと、交流がつながっていています。

Point 1 まず打ち合わせに行ってみよう！ 相手を知ろう！

小規模多機能型居宅介護とは、サービスにお年寄りの暮らしをあわせるのではなく、お年寄りの暮らしにサービスをあわせる、つまり、住み慣れた地域で、自分なじんでいる日常生活を自然に行えるよう支援を提供するものです。自宅での暮らしを「24時間365日」「切れ間なく」支える在宅サービスを提供しています。昼間は『きゃ〜ぎ』で過ごし、必要な場合はお泊まりしたり、訪問サービスを受けたり、慣れ親しんだ「なじみのスタッフ」が提供します。

先生の感想

- ・ 高齢者に関わる社会資源や制度について理解できた。
- ・ 介護を必要とするお年寄りがどのような状況にあり、どう過ごされているのかわかった。

Point 2 利用者さんとの関わりで大事にされていることは？

家に閉じこもりがちな高齢者の方に「生きがい」を感じていただく。「もっと生きたい」という明日への希望が「元気でいたい」気持ちへと繋がる。スタッフは「なじみの関係」を大切にその方の想いに寄り添う支援を行う。この方に幸せだと感じていただくためには、その方の想いを知ることが大事……。なじみの関係を築くことによってその想いを知ることができる。今日の支援のなかでどれだけの笑顔を引き出せるか……。どれだけ満足（幸せ）を感じていただけるか……。を常に心がけて一日一日を大切に支援しています。

先生の感想

- ・ お年寄りをサポートする方が大事にしていることが理解できた。
- ・ 認知症のお年寄りは変化に弱い。大事なことは「なじみ」になること。

Point 3 気なることを質問しよう

★小学校の先生からの質問

施設の方やお年寄りのみなさんが子どもたちとの交流に何を望んでいるか知りたい。私たちがよく取組むのは、子どもたちが出し物を披露したり、プレゼントをあげたりする内容だけど、なんだか一方的な気がして、これでいいのかなといつも悩んでいます。

★社協の職員より

社協は学校と施設をコーディネートする役。交流をみていて思うのは、お年寄りの方々は、子どもたちがきてくれるだけで嬉しいし楽しそうですよ。そして、子どもたちの方もいるだけで喜んでもらえる。条件つきでなくて、ありのままの自分の存在を喜んでもらえる。子ども達にとっては、その経験がすごく大切だと感じます。

★施設の所長より

お年寄りは本当に子どもたちがいるだけですごく和らぐし楽しそう。だから出し物を見るという形でもいい。ただ、やはり何か一緒にやる内容だと、もっとお年寄りは生き生きする。これは子どもたちとの関わりだけでなく、所内で過ごすときも同じ。お年寄りはまわりの方に『してもらおう』ことがどうしても多くなる。逆に、お年寄りに教えてもらったり手伝いを頼んだりすると生き生きして喜ばれる。「役に立てる」「何かしてあげることができる」という気持ちが、生きる意欲につながる。だから、お年寄りに「してあげる」だけでない、教えてもらったり、一緒に何かやるような内容だと、なお素晴らしいと思います。

先生の感想

- ・ 学校で訪問するときにも、事前に受け入れ先と打ち合わせを行うこと、まず相手を知ること、話しに耳を傾けることが重要だと感じた。



Point 4 すでに取り組んでいる人に聞いてみよう、参観してみよう

小学校4年生と6年生の子どもたちの交流に参観しました。子どもたちの歌と踊りのあと、生徒がお年寄りのところにきて肩をみせたり、一緒に折り紙で鶴を折ったりしました。引率していた先生いわく、「とにかくやってみることが大事」「何回か機会をとらえてきていますよ」と励ましてくれ、これから取り組む先生たちも「まずやってみよう」と安心感を得ました。





## 学習支援

### プログラムを提供する人の想い……



▲ 大田啓予さん  
(APS JAPAN代表)

#### 学習サポートを通して、自分がわかる変わる

他の人の勉強を手伝うと、自分がちゃんと理解していないことに気づいたり、どう説明したら理解に至るかを一生懸命考えます。もう一度勉強し直したり、わかりやすく伝える方法を考えたりして…。こうしたサポートは、意識していなかったとしても他の人の向上を真剣に考えている素晴らしい活動だと思います。

クラスメートや先輩が、真剣に考えてくれている気持ちはサポートされる児童生徒にも伝わります。学習面での効果だけでなく、コミュニケーションを通して人とのよいつながりを体験する機会になります。

お手伝いして「わかった!」、「なるほど」という言葉が聞けたら、嬉しい気持ちや達成感を持つことができるはずです。その気持ちが他の人のために何かをする原動力になるのです。

### プログラムの一場面

#### ★《学習支援ボランティア》ワークショップ

まずは「お友だちの勉強をお手伝いすること」について一緒に考えます。

- ・ 答えを教える以外に何ができるでしょう？
- ・ そもそも勉強って教えてもらう「受け身」な活動でしょうか？
- ・ それから、なぜ「勉強する」のでしょうか？
- …テストでいい点数を取るためだったり、怒られるのがいやだからするもの？

毎日している勉強なのに、知らないことがたくさんありそうです。

ワークショップの終わりには受け身にならない学習の仕方を知り、それが「教える」方法でもあることに気づきます。

勉強していて分からなくて泣きなくなったり嫌になったりすることもありますよね。でもこのワークショップで勉強の仕方を知った子どもたちは、「そんな時にどうすればいいのかわかった」と言います。だから、お友だちが同じように感じていたら、どうしてあげるのがいいのか分かるのです。



### ちょっと考えてみよう 『お友だちの勉強のお手伝い』 それでいいのかな？

授業中、プリントが早く終わった子が、まだ問題を解いている子のサポートをしていることがありますね。クラスメートへの学習支援の一つのかたちですし、とてもいいことだと思います。

でも、よく見ると答えを教えているだけだったりします。これでは、クラスの中の学力格差が広がるばかりです。実は、答えを教えるだけという行為は、他の人の学ぶ機会を取り上げてしまうことになるのです。

「教える」ということは、答えややり方を教えるのではないのです。本人がつまずいた箇所につきかえって「何が分からないか知る」ことから始まり、自分でつまずきの石をとることができるようサポートすることなのです。つまずいている本人の「わかるようになりたい!」という気持ちが「わかった!」という瞬間につながるお手伝いです。自分の勉強もお友達のお手伝いも、「学ぶ」「教える」基本を理解すると、今までとは違った気持ちで「勉強」に取り組むことができます。

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ)	概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>1</b> <b>実践能力育成と学習サポートボランティア</b> ★ (APS JAPAN、P.31)</p> <p>学習支援ボランティアを行うための準備、計画や実施の支援を行います。まず大切なのは学習を始める前に身につけておくべきもの、欠かせないものについて一緒に考えること。そして、誰もが出くわす勉強のつまずきと解決法についてドリルを交えて習得することで、学んだ知識を使えるようになる勉強の仕方を提供します。自分が学ぶことが楽しくなり、支援していく人へと育っていくプログラムです。</p>		<p>■10～40名 (小学4年生以上) ●60～120分 ★8,000円～ ※実施後、学習支援ボランティアの実践をサポートします</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分自身の学習方法が身につく。</li> <li>・学習が楽しくなる。</li> <li>・学んだことを実践する力がつく。</li> <li>・興味や探究心がより高まる。</li> </ul>
<p><b>2</b> <b>中高生が行う学習支援ボランティア</b> (APS JAPAN、P.31)</p> <p>友達や下級生、弟や妹の勉強の手伝いを行う学習援助ボランティア。これから勉強しようとしている下級生や勉強がうまく進んでいない友達に、どのように教えたらいのかを体験しながら習得します。押し付けでない上手なコミュニケーションの取り方、辞書やドリルの使い方、答えを自分で見つけていく体験を大事にしながら進めていきます。</p>		<p>■10～40名 ●90～120分 ★20,000円 (遠隔地の場合は旅費別途) ※「実践能力の育成と学習サポートボランティア」を受けた中学生以上が対象です</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上手なコミュニケーションの取り方を自分の生活に役立てることができる。</li> <li>・興味や探究心を深める。</li> <li>・人を助ける喜びや、できる自分を発見できる。</li> <li>・人に教えることで自分の学びが深まる。</li> </ul>

**おすすめ情報!** **大人が活動している学習支援ボランティアの紹介**

沖縄では、たくさんの保護者や地域の方が子どもたちの学習をサポートするボランティアを行っています。

『学習サポートチームかかゆま』は、うるま市を中心に学校で学習支援を行っているボランティアグループの一つです。先生がたと相談しながら算数・数学、国語を中心に、時には図工や音楽、体育のお手伝いもしています。

ボランティアメンバーは、子どもたちの話に耳を傾けることが大切だと考えています。そうすると子どもは元気になり、勉強にも意欲が出てきますし、自分の考えをまとめて人に話す練習にもなるのです。

保護者や地域の大人が、学校と児童生徒の状況を理解するきっかけにもなっています。

かかゆまの連絡先は：090-4470-0890





# 人権・コミュニケーション

## プログラムを提供する人の想い……



▲ 糸数貴子さん

(特活)おきなわCAPセンター事務局長  
就学前プログラムの主人公と一緒に

### 人権って、あなたの心の力だよ！ワークショップで伝えたい！！

「子どもには安心して自信を持ち、自由に生きる権利があるんだよ」と伝えることから始まるCAPのワークショップ。暴力を振るわれるとどうなるのか、ロールプレイ（寸劇）を見て考えます。「安心してた？自信あった？自由な気持ちだった？」と暴力を振るわれると大事な権利がとられてしまうことに気がきます。いじめ、誘拐、性暴力といったさまざまな暴力から自分や友達を守るためにどうしたらいいのか、子ども達の人権意識を育て、問題解決能力を引き出す楽しいワークショップです。

## プログラムの一場面

### ★“みんなだったら誰に相談できる？”

私たちが一番伝えたいことは、「あなたは世界にたった一人しかいない大切な人だよ」ということです。ロールプレイやディスカッションを通して、大切な自分を守るために何ができるのか、子どもたちと一緒に考えます。

授業の2時間（中・高生は4時間）、教室はワイワイガヤガヤとした楽しい雰囲気に包まれます。暴力という重いテーマを、わかりやすく、楽しく伝えられることで子どもたちは多くのことを学びます。

最後に担任の先生に登場してもらって、「大人に相談する」ロールプレイもあります。子ども達は大喜び。今まで相談できなかったあのことを話してみようかなと思うのです。



▲「おい、約束の金持ってきたか？」なんて、子どもどうしの暴力が起きてしまったら？写真は友だちに助けってもらって「いやだ」という場面。2人は1人よりも強いんです！

## ちょっと考えてみよう ボランティアと人権

ボランティア活動をするとき、自分が自分のことを大切に思っているかどうかはとても大切なことだと思います。相手が安心・自信・自由な気持ちでいるだろうか、自分が安心・自信・自由な気持ちでいるだろうか…。ボランティア活動をこんなふうに分りかえてみると、自分と相手の両方を尊重していけます。

「人権教育」というと、お友だちの人権を大事に！であったり、障がいのある人の人権というテーマだったり、貧困の問題を抱える国の子ども達の人権についてであったり…。それはとても大切なことなんだけど、子どもたちは「自分以外の誰かの人権」について学ぶことがほとんどで、自分と人権についてストレートに学ぶ機会がないのです。

CAPプログラムでは、まずは自分自身を大切にすることを学びます。そして、周囲の友だちを大切にすることも自分の中にあることに気付くのです。まずは自分自身の人権から子どもたちに手渡してあげたいと思っています。

## 体験後の子どもたち CAPのワークショップを受けたあとに……

- ・友だちに相談して、2人で先生にいじめのことを相談することができた。自分で相手に気持ちを伝えることに決め、相手もゴメンねと言ってくれて解決した。
- ・荷物運ぶの手伝って！と言われ、ついていくとわいせつ目的だった。CAPで習った「特別な叫び声」を出して難を逃れ、先生に話すことができ、犯人はすぐにつかまった。
- ・これまで嫌なことを言われたら、相手をたたいていたという子が、「これからは口で言います」とCAPのメンバーに宣言。
- ・子ども達と一緒にワークショップを受けた担任の先生。あの子があんなふうに分り意見を言えるんだとビックリ！子どもを見る視点が変わった。
- ・安心・自信・自由がクラスの合言葉に！

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ) 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>1</b> ボランティアする前に… 小学生のための人権教育プログラム (特活) おきなわCAPセンターP.32、CAPいしがき、P.34</p> <p>ボランティア活動の基本は人権意識とコミュニケーションの力。CAP (子どもへの暴力防止) は自分を大切にしたい気持ちを育てる人権教育。「あなたはこの世にたったひとりの大切な存在」という自尊感情が、いのちの大切さや他人への思いやりを育てる土台になります。人権を「安心」「自信」「自由」という分かりやすい言葉で示し、それが取られそうになったら何が出来るかを考え、友達同士助け合ったり、信頼できる人に相談することを、参加型プログラムで学びます。</p>	<p>【小学生】 ■一クラス単位 ●約90分 (2時限) ★20,000円 【小学生低学年】 ■一クラス単位 ●45分 (1時限) の2日間 ★20,000円 【中高生ワークショップ】 ■一クラス単位 ●100分×2日間 ★30,000円 ・船賃、航空運賃、宿泊費は別途</p> <p>※担任の先生との打合せが必要。またワークショップ直後にトークタイム (相談・復習の時間) をとる ※子どもワークショップの前に大人・教職員へのワークの実施が必要。大人ワークショップは、■何人でも ●約120分 ★20,000円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分は大切な存在、自分と同じように他人もまた大切な存在だと認識することができる。</li> <li>・信頼する大人に相談することの大切さを知る。</li> <li>・自分の行動に自信を持つことができる。</li> <li>・友達同士助け合うことができる (ピアサポート)。</li> <li>・人権や暴力に対する正しい知識を学び、クラスで共有することができる。</li> <li>・学級経営に活かすことができる。</li> <li>・自分の意見をきちんと伝える「アサーティブネス」のスキルを伝える。</li> </ul>
<p><b>2</b> ボランティアする前に… 中高生のための人権教育プログラム (特活) おきなわCAPセンターP.32、CAPいしがき、P.34</p> <p>中高生が出会うかもしれない暴力について学び、どうしたら被害者にも加害者にもならないでいられるかを具体的に話し合います。プログラムの基礎的考え方は「小学生の～」プログラムと同様です。</p>	<p>※担任の先生との打合せが必要。またワークショップ直後にトークタイム (相談・復習の時間) をとる ※子どもワークショップの前に大人・教職員へのワークの実施が必要。大人ワークショップは、■何人でも ●約120分 ★20,000円</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳について考えることができる。</li> <li>・ハンセン病問題について理解し、国家が犯した問題を学ぶことができる。</li> <li>・人権とその他の病気について発展的に考えることができる。</li> <li>・奪われた人権を取り戻すために立ち上がった人々に出会い、立ち上がる勇気を感じることができる。</li> </ul>
<p><b>3</b> ハンセン病問題を学び 差別と人権について感じ、考える！ (ハンセン病問題ネットワーク沖縄、P.35)</p> <p>誰もが患う可能性のあった病気に、たまたま罹っただけで、人間の尊厳までうばわれたハンセン病回復者。その差別と偏見の事実はいままで続いた。被害者である回復者からのお話を聞き、差別と人権について考える。あわせて、愛楽園を訪問し、フィールドワークを通し、回復できない人生被害について感じ、一人ひとりが、今何が出来るのか考えてもらう。現在も療養所が存在し、元気な回復者がいるからこそ、語られる内容に伝わる力がある。</p>	<p>■1クラス/フィールドワークは適宜少人数に分割 ●講演60-90分/フィールドワークは60-90分/小グループに分かれ回復者から話を聞くことも可能 ★経費：応相談 ※プログラムは担当者との相談の上、アレンジできます ※その他、教員向けの講座も開設できます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の尊厳について考えることができる。</li> <li>・ハンセン病問題について理解し、国家が犯した問題を学ぶことができる。</li> <li>・人権とその他の病気について発展的に考えることができる。</li> <li>・奪われた人権を取り戻すために立ち上がった人々に出会い、立ち上がる勇気を感じることができる。</li> </ul>
<p><b>4</b> ジェンダーで カラダとココロの元気を考える！ (メンズリブ沖縄、P.35)</p> <p>「男らしさ」「女らしさ」に悩む中学生、高校生を対象にした、ジェンダーを学ぶための参加型講座です。日頃無意識にすり込まれている「女らしさ」「男らしさ」を見直し、「自分らしく」生きていくことの大切さを学びます。参加型ワークやゲームを取り入れながら、わかりやすく講座を進めます。男性のファシリテーターが進めるので、特に中・高校生の男子にも参加・受け入れやすい講座です。</p>	<p>■10~40名 (1クラス) ●45分~ ★5,000円~ (1クラス1回：交通費は別)</p> <p>※事前に担当教諭との打ち合わせが必要。「Weぶらんにんぐ」(P.31) と連携して協働で授業もできます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員向け、保護者向けのワークショップを行い、関わる大人にも共通理解を作ることができる。</li> <li>・特に男の子が持つ性に関する悩みについて、個別にアドバイスを行うことができる。</li> </ul>

プログラム名（団体名、団体紹介のページ） 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>5</b> 小学生のための ジェンダー多様性ワークショップ (Weぷらんにんぐ、P.31)</p> <p>男らしさ、女らしさといった「～らしさ」から自由になることで、多様な生き方、考え方を認めることができるよう、ロールプレイやゲーム、ディスカッション、紙芝居などを使って考えます。</p>	<p>■1クラス単位 (4年生以上) ●1時限×2回(連続2時間でも別々の日でも可能) ★15,000円 ※事前打ち合わせが必要。 親子一緒に取り組むことも可能(親子レクなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピア・プレッシャー(仲間からの圧力)を防ぎ、ピア・サポート(仲間同士の助け合い)を学ぶ。</li> <li>・「男らしさ」「女らしさ」を自分にも相手にも強要せず違いを認め合うことができる。</li> <li>・学級運営の基盤を作ることができる。</li> <li>・特に男の子にとっては、「男だから～するべき」ととられない生き方があるというモデルを示すことができる。</li> </ul>
<p><b>6</b> 中高生のための ジェンダー多様性ワークショップ (Weぷらんにんぐ、P.31)</p> <p>男らしさ、女らしさといった「～らしさ」から自由になることで、多様な生き方、考え方を認めることができるように、ロールプレイやゲーム、ディスカッションなどを通して子ども達と考えます。</p>	<p>■1クラス単位 ●1時限×2回(連続2時間でも別々の日でも可能) ★15,000円 ※事前打ち合わせが必要。 親子一緒に取り組むことも可能(親子レクなど)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界人権宣言を理解する。</li> <li>・社会科公民の授業につなげることができる。</li> <li>・いじめの問題などを含めて話し合うことで、自分はどうあるべきかが一人ひとりの中で明確になる。</li> </ul>
<p><b>7</b> だれもが持つ「人権」について考える (APS JAPAN、P.31)</p> <p>世界人権宣言30カ条のひとつひとつを、現代の青少年が親しみやすいよう、短編ドラマ仕立てにした映像(DVD30分)を通して、自分が持っている権利を知り、そして他の人に対して守るべき権利について考え、また何が話せるかを話し合うプログラムです。</p>	<p>■30名～(小学6年生以上) ●60分～ ★5,000円(交通費は別途) ※DVDプレイヤーとスクリーンが必要 ※実施直後に感想や質問を書いてもらい、その内容に応じて適切なサポートを行う</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・モラルの役目を理解することができる。</li> <li>・クラス単位、学校単位で行うことができれば、共通理解を持つことができ、混乱が減少する。</li> <li>・振る舞いのものさしを持つことで、自分の行動に自信を持つことができる。</li> </ul>
<p><b>8</b> モラルってなんだろう?? (APS JAPAN、P.31)</p> <p>モラルがいったいどういうもので、なぜ必要なのかを理解します。いくつかのものさしとなるモラルを冊子や映像を使って知り、どう考え行動するのがハッピーにつながるのかを考えます。また、一歩進んで何が話せるのかを話し合うこともできます。</p>	<p>■20～40名 (中学1年生以上) ●60分～90分 ★8,000円～(交通費は別途) ※DVDプレイヤーとスクリーンが必要</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・性の健康について科学的視点で学ぶことができる。</li> <li>・性に対するゆがんだイメージを払拭できる。</li> <li>・「世界に一つしかない大切な自分のからだ」という気づきが自己肯定感に繋がる。</li> <li>・自分と他人のからだを大切に考える機会となる。</li> </ul>
<p><b>9</b> 性の健康教育 低学年むけ～ (i-De ar 舎、P.31)</p> <p>科学的な体の仕組みとして「性」を伝えます。プライベートゾーンについて分かりやすく説明し、自分の体を大切にすることや性暴力にあわないように基本的な知識を伝えます。</p>	<p>【ワークショップ】 ■1クラス(20～45名) ●1時限(45～60分) ★8,000円(交通費は別途) 【講話】 ■学年 ●1時限(45～60分) ★12,000円(交通費は別途)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な性の情報が氾濫するなか、正確な情報か判断できるチカラを持つ。</li> <li>・楽しく分かりやすく、年齢に合わせて自分ができることを考える。</li> </ul>
<p><b>10</b> 性の健康教育 ～中高学年～ (i-De ar 舎、P.31)</p> <p>思春期の体の変化や性感染症の危険性、生殖機能への喫煙の影響を身近な問題として具体的に説明します。</p>	<p>【ワークショップ】 ■1クラス(20～45名) ●1時限(45～60分) ★8,000円(交通費は別途) 【講話】 ■学年 ●1時限(45～60分) ★12,000円(交通費は別途)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な性の情報が氾濫するなか、正確な情報か判断できるチカラを持つ。</li> <li>・楽しく分かりやすく、年齢に合わせて自分ができることを考える。</li> </ul>



## 国際理解

### プログラムを提供する人の想い……



▲ 玉城直美さん

((特活)沖縄NGOセンター 事務局長)

### 地球市民として生きよう

私の好きな言葉に、Think globally, Act Locally. (地球規模の視野を持ち、地域で活動する)があります。国際人、国際理解という言葉もよく聞かれますが、私たちの活動は「国」に焦点をあてた教育活動ではなく、国境にこだわらず、地球上に暮らす「人」に焦点をあてた教育活動を目指しています。

また私たちの活動が、世界で起こっている問題を取り上げているため、豊かな日本に住んでいて良かった！という発想で終えるのではなく、つながっている地球の中で私たちの生き方を考えるきっかけづくりをおこなっています。

### プログラムの一場面

## ★「世界がもし100人の村だったら」

世界を100人に縮めると男性は48人、女性は52人と続く詩をワークショップにして体感します。日本はどんな国なのか、世界にはどんな国や人や言語や宗教などが存在しているのか、そして富の分配はどうなっているのでしょうか？ということ、身体を動かしながら分かりやすく学ぶための時間です。

低～中学年であれば民族衣装を着て世界を知るきっかけ作りに発展させます。

高学年～中学生であれば、豊かな日本に住んでいて良かったという終わり方ではなく、身近な生活を見直し、ポスターセッション発表への発展を行います。



## ちょっと考えてみよう

### ◎何ができる？ ボランティアへの芽

「島人の宝を探せ」というワークショップを通して地域の課題を探り、ポスターセッションを通して発表するということを体験します。このワークショップはBIGINの「島人の宝」に因んで作成したのですが、歌詞の中に「汚れて行くサンゴも減って行く魚もどうしたらいいのかわからない」がありますが、このワークでは、私たちの周りにあるもので何が消えて行き、何を残したくて、その課題に対するアクションプランを立て、年間計画に取り入れる内容になっています。いろいろな中学校で実施していますが、各地域の課題やアクションプランがだんだんと見えてくるようになってきました。

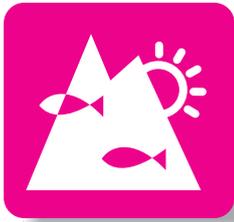
すぐに参加や行動を目指すのではなく、問題把握から始めるのも大切なことだと思います。

### ◎見直してみよう!! 募金活動

当団体が以前、世界20カ国、22地域の青少年に平和のアンケートを実施した経験があります。その際に「平和のためにあなたができることを教えてください」という質問に対し、海外の青少年は、問題の把握、デモや集会への参加、自分の意見を持つ、他者を尊重する等、様々な回答を寄せました。しかし日本の30地域の青少年の実に90%が、私にできることは「募金」と答えました。この答えの差は一体何だろうかと考えたところ、学校教育の中の募金活動、TVや大人の影響があると思われます。社会を変革すること、実はほんとに沢山の選択肢があるはずですが、募金がいけないとは言いませんが、その募金の先をきちんと追いかけていますか？そこで何かをやったとゴールを迎えた気になっていませんか？とまずは考えてみませんか。

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ)	概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>1</b> 世界がもし100人の村だったら ((特活)沖縄NGOセンター、P.32)</p> <p>「世界がもし100人の村だったら」という詩がインターネットで世界中を駆け巡りました。世界の富める国、貧しい国や人びとを数字とロールプレイで実感します。</p>	<p>★</p>	<p>■少数～30名程度 (小学2年生以上) ●45～90分程度 ★45分10,000円 90分20,000円 ※2週間前までに要調整。 大人も子どもともに学べます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界で起こるできごとを身体で実感できるようになる。</li> <li>特に言葉の違い、貧富の差について体感できる。</li> </ul>
<p><b>2</b> 地域にひろがれ！ 地球市民教育 ((特活)沖縄NGOセンター、P.32)</p> <p>楽しく身近な問題から世界とつながることができるよう、講師とともに参加型学習で体感するプログラム。また、講師の派遣だけではなく、授業の運営の仕方や、プログラムのアドバイス等も行っています。</p>		<p>■少数～30名程度 (小学2年生以上) ●45～90分程度 ★45分10,000円 90分20,000円 ※2週間前までに要調整</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加型のワークショップをとりいれているので、参加する主体性を引き出すことができる。</li> </ul>
<p><b>3</b> 貿易ゲーム ((特活)沖縄NGOセンター、P.32)</p> <p>世界の豊かな国、貧しい国5～6カ国にわかれて簡単な商品を作り、貿易を行います。貧しい国の製品は国連や国際市場に認められず、商品が買い叩かれ、日本やアメリカの国の商品は高い値がつくというシミュレーションゲームです。</p>		<p>■15～50名程度 (小学4年生以上) ●60～90分程度 ★20,000円 ※大人も子どもともに学べます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の貧困の根源が貿易の原理にあること、経済のルール(勝ち組、負け組)を本気で知ることができる。</li> </ul>
<p><b>4</b> 地球家族を考える ～フォトランゲージ ((特活)沖縄NGOセンター、P.32)</p> <p>いろいろな国々の様子の写真を通して世界の人の生活を考えます。一枚の写真から何が見えてくる？ 想像を膨らませて考えてみよう、発表してみよう！</p>		<p>■15～50名程度 (小学4年生以上) ●45～90分程度 ★45分10,000円 90分20,000円 ※大人も子どもともに学べます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>じっくり一枚の写真を眺めることで、日ごろ目や耳にしている情報の裏側にあるものを、読み解く力を身につけることができる。</li> </ul>
<p><b>5</b> 島人(しまんちゅ)の宝を探せ ～ウェビングを通して～ ((特活)沖縄NGOセンター、P.32)</p> <p>ウェビングという発想を鍛えるグループワークを通して、私たちの住む沖縄や人びとの良い点、これは少し問題だなという点を探し出すものです。その後、沖縄の抱える問題と、世界の問題を比較し、解説していきます。</p>		<p>■15～80名程度 (小学4年生以上) ●45～90分程度 ★45分10,000円 90分20,000円 ※大人も子どもともに学べます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ウェビングという手法を身につけることができる。</li> <li>この手法を使って、他のグループワークなどにも利用できるようになる。</li> </ul>
<p><b>6</b> パーム油のはなし ～「地球にやさしい」ってなんだろう～ ((特活)沖縄NGOセンター、P.32)</p> <p>「パーム油」と聞いたら環境にやさしいというイメージがありますね。しかし「パーム油」の生産地のマレーシアではどんなことが起こっているのでしょうか。生産者の環境と、パームやしが生えられている環境を、ゲームや写真を通して学びます。</p>		<p>■15～30名程度 (小学4年生以上) ●45～90分程度 ★45分10,000円 90分20,000円 ※大人も子どもともに学べます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地球にやさしい」ってなんだろうという素朴な疑問について考えるようになる。</li> <li>洗剤、身近なインスタント食品から、世界を知ることができる。</li> </ul>

プログラム名（団体名、団体紹介のページ） 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>7 たずねてみよう！ カレーの世界</b> （(特活)沖縄NGOセンター、P.32）</p> <p>日本のカレーと、インド、タイ、スリランカ地方のカレーは違いますね。何ととってもスパイスの違いで全く違ったカレーが見えてきます。スパイスが違うことと文化の違い、そこから何かを学んでみよう！ 要望があればカレーの実習も行います。</p>	<p>■15～30名程度 （小学4年生以上） ●45～90分程度 ★45分10,000円 90分20,000円 ※大人も子どももともに学べます</p>	<p>・におい、味、などから学ぶ学習なので、分かりやすく楽しみながら学習できる。</p>
<p><b>8 国際協力活動講座</b> （(特活)沖縄NGOセンター、P.32）</p> <p>国際協力の現場で働く、活動しているスタッフが現地での活動の様子をお話します。分かりやすいように写真や現地での物を通したフォトや物ランゲージを通して、関心をもってもらう授業を行います。</p>	<p>■15～30名程度 （中学生以上） ●45～90分程度 ★60分10,000円 90分20,000円 ※大人も子どももともに学べます</p>	<p>・国際協力の現場で働いてどんなことなのか知るきっかけになります。</p>
<p><b>9 もっと知りたい、アジアの友だちのこと</b> （ONE LOVE、P.36）</p> <p>写真や劇を通して、フィリピンの生活を参加型で学びます。またONE LOVEの活動を通して、国際協力の形を知ることができます。</p>	<p>■30～35人 （小学校5年生から） ●★時間および金額については、お問い合わせください</p>	<p>・フィリピンの人々の生活を身近に感じ、アジアへ目を向けるきっかけをつくる。</p>
<p><b>10 甘いチョコの苦い現実</b> （ONE LOVE、P.36）</p> <p>「世界がもし100人の村だったら」の映像を使い、チョコレートと児童労働についてみんなで考えます。</p>	<p>■30～35人 （小学校5年生から） ●★時間および金額については、お問い合わせください</p>	<p>・みんなが大好きなチョコレートを通して世界と自分のつながりを感じ、商品の裏側に隠された様々な問題の存在に気づかせる。</p>
<p><b>11 もっと知ろう！！</b> バナナから見える世界と私たちのつながり （ONE LOVE、P.36）</p> <p>紙芝居『バナナのホント』から、フィリピンのバナナの生産者と私たちとのつながりを知ることができます。</p>	<p>■30～35人 （小学校5年生から） ●★時間および金額については、お問い合わせください</p>	<p>・いつも食べるバナナの裏側を知り、私たちの身の回りにあるものの背景を考えるきっかけにする。</p>



# 環境・自然体験 I

## プログラムを提供する人の想い……



▲ 鹿谷麻由さん  
(しかたに自然案内)

### 環境教育は、まず地域の自然への理解から

最近は小学生でも「温暖化」「CO2」といった言葉をよく知っています。でも、こうした大きな環境問題が自分たちの暮らしとどうつながるのか、自分たちには何ができるのか、分からないままだったり、不安感だけを持たされることもあるようです。自然観察会や学習会を通して地域の自然に親しみ、そのしくみと自分たちとのつながりを理解することは、環境教育の第1歩。そこから、具体的に自分たちが地域でできることを考えたり、より大きな視点へと膨らませていくことができるでしょう。

## プログラムの一場面

### ★海辺の自然観察

浦添に残された自然の海辺、通称「カーミージーの海」。浦添市立港川小学校4年生は、ここで自然観察会「カーミージー探検隊」を行いました。前の週に、事前学習として1時間、沖縄の海の自然の特徴と、その中でもカーミージーの海はどんな場所なのか、さらに海の危険生物についての注意事項を学びます。

観察会当日は、PTAや地域の方々から安全サポートを依頼。さらにクラスに1名ずつ自然観察指導の講師をつけて、観察会を実施。海での観察会は子どもたちが広く散らばりますが、あえて無理には集めず、各自で海の自然とじっくり向き合ってもらいます。

海に慣れず、最初は浅瀬をこわごわ歩く子どもたち。でも、小動物を見つけると夢中で追いかけて、大きなナマコには大歓声。生き物を怖がる子どもも、こちらが生物の体や暮らしを説明すると次第に近づいて、触ってみたいします。

事後学習では、興味を持った生き物について調べ学習。さらにそれをグループでまとめて壁新聞にし、後日発表会を行いました。



▲ カーミージーの海で観察会

## おすすめ情報! 環境教育の冊子を紹介

### ■『南城市 自然観察の手引き』

(南城市教育委員会、2008年3月)

指導者・教員向けの手引きで、観察会の手順や自然の見方、佐敷干潟を例にした海の自然の紹介、自然観察に使えます。

### ■『サンゴ礁の磯—大度海岸— 自然観察ハンドブック』

(沖縄県文化環境部自然保護課、2003年3月。自然保護課HPよりダウンロード可)

大度海岸のサンゴ礁生物の紹介、観察や調査のプログラム例が参考になります。

### ■『しかたに自然案内』ウェブサイト

(www.shikatani.net/)

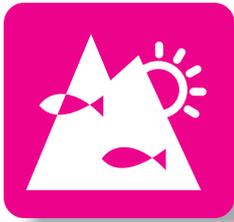
サンゴ礁・海草藻場・干潟といった沖縄の海辺の自然と生き物の情報、自然観察を行う際の準備や注意事項、海の自然に関する参考図書や参考リンクなどがのっています。

## ちょっと そのボランティア活動、 考えてみよう 本当に自発的？

大人が立てたボランティア計画、子どもにとっては「どうせやるんでしょー」。これでは、自発的な心は養えません。最初はあえて活動内容を決めず、いろいろな「地域の素材」に触れさせることから始めてみては。その中で、子どもたち自身が自分で気づき、興味や問題意識を持ったところに焦点を当て、自分たちに可能な活動を考えていく。それが本当のボランティア活動の作り方ではないでしょうか。学校でのボランティア活動は、活動を体験することだけでなく、自ら活動を作っていくことのできる人間を育てるのが、本当の目的だと思います。

そして、何が飛び出すか分からない計画にアドバイスやサポートをするのが、様々な得意分野を持つNPOの役割。遠慮なく相談を!

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ) 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>1</b> 海辺の自然観察 </p> <p>(しかたに自然案内、P.34)</p> <p>島の周囲には砂浜、干潟、海草藻場、サンゴ礁など様々な環境があります。春～夏の大潮の時期、潮がひく日中の時間帯を使い、地域の身近な海辺へ自然観察に行きましょう。学習の目的によって、観察場所や内容などはオリジナルに考えていきます。</p>	<p>■10～40名 (1クラス) ●90分 ★20,000円 (事前学習が必要。1クラス～1学年、45分、10,000円) 調整：30日前までに ※潮の良い日時は限られるので早めの相談を。年間を通じた継続的な環境学習の相談にも応じます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然にふれあう機会をもつ。</li> <li>・地域の海の自然への興味や理解を促す。</li> <li>・自然に対する科学的な見方を養う。</li> <li>・体験を通じて様々な教科の学習につなげることができる。</li> </ul>
<p><b>2</b> 干潟の生きものしらべ</p> <p>(佐敷干潟と遊び学ぶしあわせまねきの会、P.34)</p> <p>干潟の中にも様々な環境があり、場所によって生き物の種類や数が変わります。どのように変化するか、砂を掘るなどして調べ、環境と生き物の関係について話し合ってみよう。</p>	<p>■10～40名 (1クラス) ●90分 (野外) ★20,000円 ●135～180分 (野外+室内) ★30,000円 ※時間・経費は応相談。室内部分は事前・事後学習で対応。調整：30日前までに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・干潟がどんな場所か、五感を使って体験できる。</li> <li>・環境や生き物への興味・関心を引き出す。</li> <li>・自然に対する科学的な見方を養う。</li> </ul>
<p><b>3</b> 干潟のごみしらべ</p> <p>(佐敷干潟と遊び学ぶしあわせまねきの会、P.34)</p> <p>干潟のごみにはどのようなものがあるのか、ごみを種類別に拾って調べてみよう。そしてごみがどこから来たか、このまま干潟にあるとどうなるのか、ごみを減らすにはどうしたらいいのかを考えてみよう。</p>	<p>■10～40名 (1クラス) ●90分 (野外) ★20,000円 ●135～180分 (野外+室内) ★30,000円 ※時間・経費は応相談。室内部分は事前・事後学習で対応。調整：30日前までに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海の環境問題への気づきを促す。</li> <li>・海と人の生活とのつながりを考える。</li> <li>・自分たちが環境に貢献できる活動を具体的に考える。</li> </ul>
<p><b>4</b> 美ら海づくりクリーン体験</p> <p>(沖縄がじゅまる自然学校、P.32)</p> <p>このままでは壊れてしまってもおかしくない自然環境のために私たちができることはたくさんあるはず。エメラルドグリーン的大海、羽地内海でビーチクリーン体験だけでなく、前後では海遊びも行いましょう。潮が引いていれば、干潟や磯観察。潮が満ちていれば海のフォトフレーム作りを行います。</p>	<p>■20名～50名程度 ●2時間 ★2,000円/人 (沖縄県内割引制度あり) ※人数や時間については相談可</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然への関心を高める。</li> <li>・人と自然の関係を意識する。</li> <li>・沖縄の自然環境について知る。</li> <li>・日頃から自然環境の関心を持つ。</li> </ul>
<p><b>5</b> 一発見・体験・出会い・地球人めざそうー「大人と子どもの自然学校」</p> <p>((特活) マングローブEEクラブ、P.35)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●マングローブで観察会・生き物調査 うるま市州崎の人工マングローブ林での自然体験</li> <li>●持続可能な環境社会をめざす「環境学習」講座 地球環境問題の基礎知識を学ぼう</li> <li>●ネイチャークラフト 貝殻や木の実など沖縄素材を生かして楽しめます</li> </ul>	<p>【体験活動】 ■20～30名 ●90分 ★10,000円 ■30～60人 ●90分 ★20,000円 (講師2人分含) 【「環境学習」講座】 【ネイチャークラフト】 ■20～30人 ●90分 ★10,000円 (資料・材料代は別料金) ※学校・自治体の「環境学習」の相談に応じます</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野外体験を通して、環境問題の今を考える。</li> <li>・大人と子どもが共通体験を通して、自然のノウハウを学び交流を深める。</li> <li>・地球規模で広がる環境問題の基本知識を得る。</li> <li>・持続可能な社会形成に自ら行動する方法を習得する。</li> </ul>



## 環境・自然体験Ⅱ

### プログラムを提供する人の想い……



▲ 山崎新さん

(沖縄地域環境アセンブリー代表)

### やっぱり先生にはかなわないな！

環境学習の講師として学校に行くとそう実感します。環境学習は生徒による主体的な実践が大切です。子どもが実践の中で学び、チャレンジしたことで自信を身につける。生徒のチャレンジした喜びは数字の成果としても現れます。でも、一日だけの講師には、生徒の実践に立ち会い続けることはできません。それができるのは先生なのです！

知識や手段をNPOが提示し、先生が実践の日常の支援を行えば、主体的な実践の学びはできる！そう、環境教育に必要なのは役割分担だったのです！

### プログラムの一場面

## ★学校エコアクションプログラム

環境問題は私たちの生活とつながっていて、個人の活動だけでなく施設や組織で取り組む必要があります。そこでこのプログラムは、学校を舞台とした、環境問題と私たちの日常をつなげる実践学習を目的としています。

学校の主役は生徒です！生徒が自ら学校の中の「もったいない」を探し、その原因や社会的課題と向き合い、それぞれで解決方法を見つけ、提示する作業を行います。

1. 学校のもったいないを探せ
2. テーマ分類（電気・ごみ・水道など）
3. 取り組む課題を決める
4. 問題の原因と解決方法を考える
5. みんなに発表して取り組む

生徒は主体的に学んだ事で自信を持つことができ、その自信は行動として表れます。学習後、こまめに照明を消す、プールのシャワーをこまめに止めるなど、言われるのではなく当たり前に行動する生徒が出てきました！



▲ 芝居、漫才風など、伝える工夫も成果のひとつ

### おすすめ情報！ 学校エコアクションプログラム

「環境教育や環境への取り組みを行いたいけど、どのようなプログラムを立てればいいのか分からない」と悩んでいませんか。

それもそのはず、環境というテーマは切り口も色々あり、内容によっては専門的などところもあります。何を、どのように学ばせるのかを先生だけで考えるのは大変です。そこで、環境学習の全体の流れをつくるプログラムをつくりました！

どの様にすれば良いのかをまとめた冊子を、気候アクションセンターおきなわと共同で作成しましたので、ぜひご利用下さい！これは、沖縄県が小学校編、中学校編として2004年、2005年に発刊した『沖縄県環境教育プログラム』を実践する導入にも使えます。わからない点はお気軽にご相談下さい！



## 環境・自然体験Ⅱ ＊プログラム一覧

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ)	概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<b>1</b> 学校エコアクションプログラム (沖縄地域環境アSEMBリー、P.33)	★ 学校で使用しているエネルギーを減らすため、学校のもったいないを探して解決方法を出していく作業を、生徒が作っていくことを応援するプログラムです。全体のプラン作りと、足りない部分のサポートを行っています。	■15～80名 (1～2クラス程度) ●90～120分 ★10,000円/時間	・生徒が主役、実践の場は学校を明確にする事で、継続して取り組むことが見込める。
<b>2</b> 食べ物世界地図づくり (沖縄地域環境アSEMBリー、P.33)	日本の食糧自給率について考える企画です。スーパーのチラシを切抜き、産地ごとに世界地図に貼り付けていきます。そうすると、私たちの食卓が世界の食糧問題と密接につながっていることを実感できます。世界の貧困や命を食べるということを改めて伝え、食の大切さについて考える場をつくります。	■10～80名 (応相談) ●90～120分 ★10,000円/時間	・楽しく、身近に、わかりやすく食について考える事ができる。 ・この授業を基礎として、給食や畑の学びに発展させることができる。
<b>3</b> 環境教育プログラム「買い物ゲーム」 (沖縄リサイクル運動市民の会、P.34)	カレーの材料を買い揃えるゲームを通してゴミを減らすことを考える体験プログラム。子どもたちは商品の容器や包装などのゴミの量、質、処理費、環境への影響に気づいていきます。ゴミ問題から社会がみえるきっかけがつかめます。	■20名以下 ●90分 ★30,000円 ■20～40名 ●90分 ★40,000円 ※14日～1ヶ月前までに要調整	・身近な自然環境とライフスタイルとの関係に気づく。 ・環境に配慮した行動を考え実践に結びつく。 ・地域の課題に取り組むきっかけをつくる。
<b>4</b> ゴミ問題を考えるワークショップ (アースの会、P.31)	日常生活でできるごみ問題について伝える講座です。まずは、ごみの現状を知り、自分でできることを考え実践することにつながります。プログラムの流れは、「環境に関する講話」「寸劇」「風呂敷を使ったマイバッグ作り」「ミニ地球作り(地球上での資源の循環とバランスを学べる道具作り)」となります。	■1クラス ●2校時分 ★20,000円(材料費は別途)	・むずかしいことに取り組むのではなく、まずは自分で何かできることを見つける……そのためのきっかけ作りとなる。
<b>5</b> エコクッキング (アースの会、P.31)	調理を通して、環境問題を考えます。スープまたはカレーを作る工程で、生ごみを出さない、省エネ、太陽光で調理するソーラークッカーを利用して実践します。	■1クラス ●2校時分 ★20,000円(材料費は別途)	・子どもが大人に伝えることができる。 ・調理を通して、ゴミ問題・地球温暖化・エネルギー・地産地消・水の問題など、いろいろな分野に発展することができる。
<b>6</b> 地球温暖化のヒミツを探れ！(出前授業) (NPO沖縄ホールアース研究所、P.33)	地球温暖化の真実とは？ 沖縄にも温暖化は起きているの？ このままだとどうなっちゃうの？ どんなことに頑張ればいいのか？ 分かっているようで分かっていない、そんな温暖化について、スライドや体験型ゲームを交えて楽しく分かりやすく一緒に学びます。	■子どもから大人まで、1クラス(20人程度)から～ ●★料金や時間は応相談 ※場所に応じて、100人を超える規模での実施も可能です。	・地球温暖化について、楽しく分かりやすく学ぶことができる。 ・具体的な行動の目標が明確になる。

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ)	概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<b>7</b> 自然をたのしく学べるプログラム ( (特活) エコ・ビジョン沖縄、P.31)	プロジェクト・ワイルドやプロジェクトWET、プロジェクトラーニングツリー、ネイチャーゲームなどの環境教育プログラムを活用した授業をカリキュラムや要望にあわせて実施します。実施する場所は、学校(教室、校庭)、公園など。教科も総合に限らず、国語、社会、理科、図工、家庭科などに対応できます。	■10~40名 ●90分 ★10,000円 ●180分 ★20,000円 ※実施時間や内容は相談しながら決めます。交通費は別途 ※年間の授業計画の相談にも対応可。各環境教育プログラムの指導者養成講座も実施しています	・野生動物、水資源、森などについて、体験をとおして楽しく学べる。 ・グループワークをとおして、論理的な思考や意見をまとめ、発表する訓練ができる。
<b>8</b> 森の指令ゲーム ( (特活) エコ・ビジョン沖縄、P.31)	末吉の森で見られる不思議なものを写真カードをたよりにグループで探すゲームです。グループのメンバー全員が見なければいけない、取ってはいけない、というルールで、決められたコースで制限時間内にできるだけたくさん見つけます。最後に、発見したこと、感じたことを参加者全員で分かち合います。	■10~40名 ●90分 ★10,000円 ●180分 ★20,000円 ※30日前までに要調整 実施場所は基本的に末吉公園(那覇市立森の家みんみん)。年間の授業計画の相談にも対応可	・「見つける」「気づく」などの自然を観察する力が身につく。 ・発見する面白さに気づく。 ・ルールに従ってグループで活動するため、協調性を身につけることができる。
<b>9</b> ビオトープ観察会 (沖縄自然環境ファンクラブ、P.32)	市民参加で整備した末吉公園の水辺のビオトープ周辺を活用した観察会を実施します。観察会をしながら、ビオトープの意味、末吉公園のビオトープの意義、身近な自然の課題をみんなで考えます。	■10~40名 ●90分 ★10,000円 ●180分 ★20,000円 ※実施場所は基本的に末吉公園だが、学校ビオトープのワークショップも開催可	・ビオトープやその意義について学べる。 ・外来種と在来種の問題について学べる。 ・身近な自然について考えるきっかけをつくれる。
<b>10</b> 端材でアート(アーチ作りに挑戦) ( (特活) エコ・ビジョン沖縄、P.31)	5名~6名のグループに分かれて、木の枝や切れはしなどの「端材」を組み合わせたアーチ作りに挑戦します。接着剤は使用せず、素材の端材が押し合う力を利用します。	■10~40名 ●90分(45分×2) ★12,000円 ※30日前までに	・協力することの大切さを学ぶことができる。 ・達成感が得られる。 ・自然観察などをプログラムの前後に取り入れ、自然のしくみ「つながり」を学ぶことができる。
<b>11</b> 丸太切りジグソーパズル (NPO沖縄ホールアース研究所、P.33)	ノコギリを使って丸太を自分の力で切り、輪切りになった木の両面に絵を描いて、世界に1つだけのオリジナルジグソーパズルを作ります。環境問題に関心を持ってもらう効果が期待できます。	■子どもから大人まで ●1人当たりの所要時間はおよそ20分~30分 ★人数・料金は応相談	・樹の匂いや感触に触れることで、自然体験の楽しさや喜びを感じる。 ・県産材の有効利用により、沖縄の森林が抱えている課題について考える契機にもなる。
<b>12</b> 古着で裂き布織体験 (NPO沖縄ホールアース研究所、P.33)	要らなくなった古着を裂いて織り込み、オリジナルのコースターを作ります。リサイクル・リユースを実現できるばかりか、彩り豊かな雑貨を自分の創意工夫で作り出す喜びを感じられます。	■子どもから大人まで ●完成までの1人当たりの所要時間はおよそ30分 ★人数・料金は応相談	・要らなくなった古着を捨てることなく、有効活用ができる。 ・再利用における先人の知恵を知ること、日頃のライフスタイルを見直す契機にもなる。

プログラム名 (団体名、団体紹介のページ) 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>13 廃油DEキャンドル</b> (NPO沖縄ホールアース研究所、P.33)</p> <p>使用済みのてんぷら油を利用して、カラフルなオリジナルのキャンドルを作ります。夏至や冬至に合わせて、家庭でキャンドルナイトを実践してみよう。</p>	<p>■子どもから大人まで ●完成までの1人当たりの所用時間はおよそ30分 ★人数・料金は応相談</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用済みてんぷら油をごみとして捨てることなく、有効活用ができる。</li> <li>・油が水に与える負荷を考慮することで、日頃のライフスタイルを見直す契機になる。</li> </ul>
<p><b>14 ホタルの観察会</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>ホタルの生態や環境をプロジェクターで学習し、野外でのホタルの観察に入っていきます。昔作られていたテリハボクの実を使ったホタルの提灯作りなどの工作体験も交えることができます。</p>	<p>■20～40名 (1クラス)、 ●135分 (3時限) ★12,000円 (材料費は別途) ※14日前までに調整。材料などについて打合せ必要</p> <p>※実施後、子どもたちにアンケートをとる。数週間後、担任 (PTA) に子どもたちの遊びの様子についてアンケートをとる。</p> <p>※実施後、子どもたちにアンケートをとる。数週間後、担任 (PTA) に子どもたちの遊びの様子についてアンケートをとる。学校の昼休みや地域で子どもたちが「むかし集団遊び」ができるよう提案、アドバイスする</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の作り方、相手を認め合う、自分を認め合う、褒めあう・励ますおもしろさの体験。</li> <li>・いじめをなくす (遊びを長く続けていくために「平等」が必要。負けても気にしない)。</li> <li>・遊びを通して男子と女子の違和感を変える。</li> <li>・目標 (仲間の目標、自分の目標を創り出す) がはっきりする。</li> <li>・日本の遊び文化を身につけることができる。</li> <li>・自然の中での楽しさ、面白さを発見する。やがて学習にもつなげることができる。</li> <li>・子ども同士が「本音」を出し合う。</li> </ul>
<p><b>15 野草を食べよう</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>その辺にある雑草が野草。パワーポイントで地域の野草、毒のある野草、農薬に対する注意事項などを学習し、その周りで採取します。採集した野草は、野草てんぷらや野草飯、ひらやーちー、野草天井などを野外で料理します。身近にある自然とのかかわりができるプログラムです。</p>		
<p><b>16 アルミ缶ごはん</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>意外性シリーズ。どこにでも転がっている350mlの缶2個で一人分のご飯が炊けます。燃料は捨てる割り箸。リサイクルです。炊き込みごはんもできます。他にも焚き火でのおやつづくりなどもあります。</p>		
<p><b>17 清流トレッキングと滝つぼ遊び</b> (沖縄がじゅまる自然学校、P.32)</p> <p>大きなクワズイモだったり、巨大化したシダ植物を観察。途中では木の途中から植物が生えていたり、小さな生き物を見つけたりと発見がいっぱい。清流の中を歩いていけば、突如滝が現れます。遊び心いっぱいの体験プログラムです。</p>	<p>■20～50名程度 ●3時間 ★3,000円/人 (沖縄県内割引制度あり) ※人数や時間については相談可</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然への関心を高める。</li> <li>・人と自然の関係を意識する。</li> <li>・沖縄の自然について知る。</li> <li>・沖縄の生き物の世界を知る。</li> </ul>
<p><b>18 ヌチシヌジガマ探検</b> (沖縄がじゅまる自然学校、P.32)</p> <p>鍾乳洞を作り上げた水の流れを遡りながら、真っ暗闇の世界を探検。コウモリやテナガエビなど、洞窟内に生息する生き物にも出会えるかもしれません。これは自分の懐中電灯だけが頼りの大冒険。入洞前は沖縄の昔ながらの里を散策します。</p>	<p>■20～50名程度 ●2時間 ★2,400円/人 (沖縄県内割引制度あり) ※人数や時間については相談可</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の海以外の世界を知る。</li> <li>・人と自然の関係を意識する。</li> <li>・沖縄の特異性について知る。</li> <li>・沖縄の自然について知る。</li> </ul>



## 文化・芸術

### プログラムを提供する人の想い……



▲ 中川美和子さん

(ヨナグニウマふれあい広場 本島支部長)

### 大型動物との出会いで、子どもが変わる！

都市部では動物とふれあうことはおろか、目にする機会さえ少なくなっています。実際に馬を目の前にして「ウシ？ ホンモノ？ 生きてるの？」と聞く子のなんと多いことか！ 「こわい、きたない、くさい」というのもお決まりの文句。でもそんな子も、馬とふれあわせ、乗せてしまえばこっちのもの。強張っていた表情がみるみる緩み、満面の笑みになります。そして自然に出る、「乗せてくれてありがとう」の言葉。ふだん目にする事のない、大きな、リアルな生き物とふれあうことで、確実に子どもが変わっていくのを実感できるのが楽しいです。

### プログラムの一場面

### ★まるごとウマ体験ワークショップ

乗馬だけが馬遊びではありません！ 馬糞の掃除からブラシがけ、ヒツメの手入れなどのお世話も、子ども達にとっては楽しい遊び。乗せてもらう前に一通りの世話をし、まずは馬と友達になるのが馬広場流です。

お世話の後、早く馬に乗りたがる子ども達に「まだまだ」と言いながら、馬を引いて一緒に歩いたり、走ったり。これが最初は絶対にうまくいきません。自分より大きな動物ですから、力では絶対に動かせないのです。大きく、もの言わぬ動物に、どうやって自分の意志を伝えるか。どうすれば言うことを聞いてくれるのか。子ども達は世話や乗馬を通じて、こうした課題を一つ一つクリアしていきます。

この言語を超えたコミュニケーション能力を養うことが、ワークショップの目的の一つです。馬は人の心を敏感に感じる動物ですから、真剣に心からの意志をぶつければ必ず応えてくれます。こうした訓練を重ね、子ども達はやがて人とのコミュニケーションも覚えていくのです。



▲ブラシがけは馬と友達になる方法の一つ

### 体験後の子どもたち……

ワークショップで重視するのは、自分のありったけの愛情と意志をきちんと、自ら積極的に、馬に伝えること。馬と真剣に向き合い、それが馬に伝わった時、馬は子どもに寄り添い、馬と子どもは信頼関係が結ばれます。ヒツメの手入れ一つでも、信頼関係がなければ馬は脚を上げてくれません。馬が初めて自分の指示に従ってくれた時の子ども達の嬉し

ような顔は、スタッフにとっても感動的です。

こうした一つ一つの積み重ねが子ども達の自信につながり、物事に対して積極的になったり、はっきりと物を言えるようになったり、といったことにつながるようです。最も印象的だったのは、ワークショップで馬にはまって押しかけボランティアになった中学生です（ボランティアは高校生以上）。この子は本当に口数が少なく消極的な子だったのですが、ボランティアをしている時は積極的に動いて乗馬をする子達の世話を焼き、スタッフはもちろん知らない大人ともしっかり話ができるようになりました。この子は今も部活の合間に時間をやりくりして馬に会いに来ます。1回きりの体験も子どもにとっては衝撃的ですが、何度か体験することで少しずつ子どもが変わっていくのが実感されます。



プログラム名（団体名、団体紹介のページ） 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>1</b> みんなで乗馬体験 (ヨナグニウマふれあい広場、P.36)</p> <p>馬体験の入門編です。まずは馬を実際に目にするとところから。絶滅の危機にあるヨナグニウマ、そして彼らの働きについてお話をし、エサあげや乗馬などのお楽しみプログラムに移ります。馬と遊ぶ楽しさを知り、ヨナグニウマを大事に思うきっかけとなれば嬉しいです。</p>	<p>■20～60名 ●45～90分 ★20,000円 ※人数が少ないほど、ふれあう時間がたっぷり取れます。出張の場合は人数・費用など相談。120名程度まで対応可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄の在来馬ヨナグニウマについての知識が深まり、一緒に遊ぶ楽しさを知ることにより保存意識が高まる。</li> <li>・動物の温かみ、大きさに直にふれあうことの感動を実感できる。</li> </ul>
<p><b>2</b> まるごとウマ体験ワークショップ ★ (ヨナグニウマふれあい広場、P.36)</p> <p>一歩進んだ馬体験。乗馬はもちろん、馬糞の掃除やブラシがけ、蹄の手入れなどのお世話も体験します。乗馬は、自分で手綱を持って馬を動かすところまで教えます。他に「はだか馬体験」なども。</p>	<p>■3～6名 ●60～90分 ★一人2,000円 ※1回でもある程度の効果はありますが、継続により、より高い効果が得られる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非言語コミュニケーション能力の向上。</li> <li>・周囲の人（子どもも大人も）とのコミュニケーション力の向上。</li> <li>・潔癖症の改善。</li> <li>・積極性、自信を養う。</li> </ul>
<p><b>3</b> 学校音楽鑑賞会はこんなに楽しい！ (おしゃべりMUSICオフィス、P.34)</p> <p>「学校音楽鑑賞会」は、多くの子どもにとって「はじめてコンサートを聴く」機会です。子どもの「はじめて」を大切に、音楽への扉とするために県内外で活躍する音楽家のメンバーが演奏します。「楽しい! おもしろい!」が、子どもたちをあらゆる困難から立ち上げさせ、生きる喜びを見出す活力となり、豊かな心を育む一助になるでしょう。</p>	<p>■400～1200名 ●約60～80分 ★一人700円以上 ※演奏に子ども達が参加する場合は打ち合わせが必要 ※鑑賞会后、子どもたちが自主的に活動する機会に発展した場合、学校へ指導に出向くことが可能</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生の演奏から演奏家の真剣な態度を見ることができる。</li> <li>・音楽への興味・感動を得ることができる。</li> <li>・父母や地域にも公開し、子どもたちと感動を共有できる。</li> <li>・児童生徒参加型コンサートや楽器演奏体験コーナーを通して、プロと同じ舞台上に立つ貴重な経験ができる。</li> </ul>
<p><b>4</b> 音楽たのしみ隊 (久音(ひさね)の会、P.35)</p> <p>オカリナ・箏(こと)・その他楽器で、交流を深めます。子ども達が好きな楽器でサークル(クラブ)活動したい場合指導を行うこともできます。</p>	<p>■20～30名 ●約90分(45分×2コマ) ★無料(交通費は別途)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に楽器を見て、触れて、その楽器の持つ音色や特徴を感じることができる。</li> <li>・優しい気持ちになれる。</li> </ul>

プログラム名（団体名、団体紹介のページ） 概要	■対象人数 ●時間 ★経費	期待できる効果
<p><b>5</b> <b>むかし集団遊び</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>「体」と「頭」と「心」とエネルギーいっぱいを使って遊びます。昔ながらの集団遊びは長く続けていくことに意味があります。仲間と遊びを作り上げていく、それを長く続けていくことで「いじめ」をやっつける力になっていきます。面白さ、楽しさ、そしてできてゆく仲間との関係が子ども達には必要です。Sケン、王様とり、一の段、ネコドンなどの遊びです。</p>	<p>■20～40名（1クラス） ●135分（3時間） ★12,000円</p> <p>・14日前までに調整 ・材料などについて打ち合わせ必要。材料費は別途 ※実施後、子どもたちにアンケートをとる。数週間後、担任（PTA）に子どもたちの遊びの様子についてアンケートをとる</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲間の作り方、相手、自分を認め合う、褒めあう・励ますおもしろさの体験。</li> <li>・いじめをなくす（遊びを長く続けていくために「平等」が必要。負けても気にしない）。</li> <li>・遊びを通して男子と女子の違和感を変える。</li> <li>・目標（仲間の目標、自分の目標を創り出す）がはっきりする。</li> <li>・日本の遊び文化を身につけることができる。</li> <li>・自然の中での楽しさ、面白さを発見する。やがて学習にもつなげることができる。</li> <li>・子ども同士が「本音」を出し合う。</li> </ul>
<p><b>6</b> <b>竹とんぼづくり</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>アイスクャンディの棒をリサイクルしながら遊ぶ伝承遊びです。手袋をはめ、カッターの使い方を覚え、何度も飛ばまでチャレンジする遊びです。</p>	<p>※学校の昼休みや地域で子どもたちが「むかし集団遊び」ができるよう提案、アドバイスする</p>	
<p><b>7</b> <b>カーブヤーづくり</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>沖縄に昔からある凧の1つであるカーブヤー作り。世界の凧作りの中でも、簡単にできてすごくよく飛ぶ凧です。宝物の凧が壊れても「修繕して使う」ことを教えることができます。「壊れたら捨てる」生活が変わるきっかけにもなります。</p>		
<p><b>8</b> <b>光る泥だんごづくり</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>子どものムダな遊びの原点がここにあるようです。土と砂、水から自分の顔が見えるまで泥団子が光ります。コツがわかれば1時間でできます。子どもより、大人がハマります。昔ながらの宝物です。泥だんご作りのみんなとのユンタクも宝物です。</p>		
<p><b>9</b> <b>外で作る手作りアイスクリーム</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>大きなビニール袋の中で、ドライアイスを使ったアイスクリーム作りを体験します。野外で簡単にできるとってもおいしいアイスクリーム。意外性には驚きと発見があります。</p>		
<p><b>10</b> <b>たき火パン</b> (ONEネットワーク、P.36)</p> <p>各グループでパン生地を作り、30分～1時間で発酵させ、竹棒に巻きつけて焼くたき火パンです。火のたき方も子ども達に伝えながら、バーベキューセットなどをカマドにし、廃材か炭でできます。発酵時間はいくつかの昔遊びを教えることができます。</p>		



# NPOリスト

このガイドにプログラムを掲載している団体です（50音順）

<b>【団体名】</b> ・設立年 ・代表者 (担当者)	<b>【連絡先】</b> 住所／電話／FAX／e-mail／HP (会員数)	<b>【活動分野】</b> …掲載している分野名とページ 団体や活動の内容を紹介しています。
<b>i-Dear舎</b> ・2004年 ・玉元一恵 (〃)	〒900-0015 那覇市久茂地3-29-41-402 (すぺーす・結気付) 電話&FAX：098-898-0558 (正会員6名、賛助会員63名)	<b>【福祉・健康】</b> …P.18 女性や子どもが『心とからだを大切にする』取り組みを行っています。市民の視点で学ぶ『護身術』から『性の健康教育』まで、人権と科学の視点で自分のココロとカラダを安全に保つための情報を提供しています。
<b>アースの会</b> ・1997年4月 ・宮良弘子 (〃)	<b>■事務局：</b> 〒903-0804 那覇市首里石嶺町2-85 エコショップえころん内 電話&FAX：098-885-5233 e-mail：earth-family@fuga.ocn.ne.jp <b>■那覇市リサイクルプラザ：</b> 〒901-1105 南風原町新川641 4階 電話：098-889-5396、FAX：098-835-6253 e-mail：re-plaza@m1.cosmos.ne.jp	<b>【環境・自然体験】</b> …P.25 グリーンコンシューマー（環境市民）を増やすための情報発信やノウハウを提供している市民グループ。1996（平成8）年に那覇市リサイクルプラザの啓発部門を立ち上げたメンバーが同所中心に啓発活動を行っている。学校や地域団体への出前講座も行う。
<b>Weぶらんにんぐ</b> ・2000年 ・糸数貴子 (〃)	〒900-0015 那覇市久茂地3-29-41-402 (すぺーす・結気付) FAX：098-864-1539 (会員10名)	<b>【人権・コミュニケーション】</b> …P.18 女性と子どもが安心して安全で暮らせるまちづくりについて取り組んでいます。ジェンダー・フリー教育や男女平等に関する調査研究、講座やワークショップなどを企画・運営しています。
<b>(特活)</b> <b>エコ・ビジョン沖縄</b> ・2000年10月 ・古我知浩 (藤井晴彦)	〒903-0805 那覇市首里鳥堀町4-44-1 電話：098-886-3037 098-882-3195(森の家みんな) FAX：098-882-3196 (会員10名)	<b>【環境・自然体験】</b> …P.26 エコロジカルな市民社会の実現を目指して、リサイクルや環境教育事業を行っています。子どもの研修施設『那覇市立森の家みんな』の指定管理者として、末吉公園の自然を活かした環境学習をおこなっています。
<b>APS JAPAN 沖縄</b> ・2004年11月(沖縄) ・大田啓予 (〃)	〒904-1111 うるま市石川東恩納1-1 電話&FAX：098-965-7072、090-4470-0890 e-mail：okinawa@tsukaeru.org http://www.tsukaeru.org/ (会員50名)	<b>【学習支援】</b> …P.14、15、18 学んだ知識を応用できるように勉強する方法があります。とても基礎的なことですが、とても重要なものです。この「勉強の技術」を子どもから大人、教育関係者まで広く伝えることで生涯学習を応援する活動をしています。またコミュニケーション法や自主性を伸ばす子育てについてもプログラムを提供しています。最近では学習障がいなど困難を抱えている子どもと保護者の解決のお手伝いもしています。

【団体名】 ・設立年 ・代表者 (担当者)	【連絡先】 住所／電話／FAX／e-mail／HP (会員数)	【活動分野】 …掲載している分野名とページ 団体や活動の内容を紹介しています。
<p>(特活) 沖繩NGOセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1999年7月</li> <li>・新垣誠 (玉城直美)</li> </ul> <p>*旧の沖繩NGO活動推進協議会</p>	<p>〒901-2211 宜野湾市宜野湾3-23-52 1F 電話：098-892-4758 FAX：098-892-9908 e-mail：onc@oki-ngo.or.tv http://www.oki-ngo.or.tv</p>	<p>【国際協力】 …P.19～21</p> <p>沖繩県内に拠点を置く国際協力・交流NGOのネットワーク組織。NGOの組織強化への支援や、国際協力や国際理解などについて、身近な問題と世界問題を分かりやすく学ぶための勉強会や講座、イベントを行っています。</p>
<p>(特活) おきなわCAPセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1996年11月</li> <li>・長田清 (糸数貴子)</li> </ul>	<p>〒900-0015 那覇市久茂地3-29-41-402 (すぺーす・結気付) 電話&amp;FAX：098-862-1686 e-mail：okinawa-cap@okinawa-cap.com http://www.okinawa-cap.com (正会員25、賛助会員100名)</p>	<p>【人権・コミュニケーション】 …P.16、17</p> <p>子どもたちが暴力の被害者にも加害者にもならず、安心して暮らせるよう、大人と子どもに人権教育に取り組んでいます。子どもたちの力を信じ自尊心を育むこと、暴力を防止する理念や知識、技術を伝えています。暴力とは人権が奪われること、大人も子どもも自分や人の人権を尊重し守ることができることを楽しく実践的に学ぶ教育プログラム（ワークショップ）を提供しています。</p>
<p>沖繩がじゅまる自然学校</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1998年</li> <li>・浅子智昭</li> <li>・小林政文</li> </ul>	<p>〒905-1143 名護市真喜屋500の1 2F 電話&amp;FAX：0980-58-1852 e-mail：gajumaru@wens.gr.jp http://wens.gr.jp/gajumaru/</p>	<p>【環境・自然体験】 …P.23、27</p> <p>沖繩のさまざまな自然界で活動している『自然体験型の環境教育事業所』です。実体験主義・自然観の回復をテーマに、様々な自然体験プログラム・指導者研修・自然体験エコツアー・修学旅行などの企画、コーディネート、実施を行っています。</p>
<p>沖繩県介護実習・普及センター (県社協)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2003年</li> <li>・知念貞子 (又吉ちさ)</li> </ul>	<p>〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1 沖繩県総合福祉センター 東棟1階 電話：098-882-1484 FAX：098-882-1486 e-mail：kaigo@okishakyo.or.jp</p>	<p>【福祉・健康】 …P.12</p> <p>介護に関する知識や技術、福祉用具に関する知識や技術を普及するため、小学校4年生から大人まで体験しながら学べる楽しい介護講座を提供しています。また、当センターでは福祉用具の展示場もあり実際に見たり！触れたり！試したり！ができます。</p>
<p>沖繩県車いすサッカー協会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2006年1月</li> <li>・嘉数貞夫 (上間彰善)</li> </ul>	<p>〒901-2103 浦添市仲間1-10-7 (浦添市ボランティア連絡協議会内) 電話&amp;FAX：098-874-4932 (会員22名)</p>	<p>【福祉・健康】 …P.11</p> <p>電動車いすサッカー及び手動車いすサッカーの競技を行う競技の普及と発展のために活動しています。車いすサッカー競技大会の主催や研修会・講習会の開催、車いすサッカーにふれる機会を提供しています。</p>
<p>沖繩自然環境ファンクラブ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2007年6月</li> <li>・藤井晴彦 (＼)</li> </ul>	<p>〒901-1205 南城市大里高平132-3 電話：090-1872-6948 e-mail：anemone@harusa.net (会員：7名)</p>	<p>【環境・自然体験】 …P.26</p> <p>自然が自慢の沖繩ですが、人間活動が盛んになるにつれて、その自然が急速に失われています。残っている自然を大切に、本来の姿に回復できるように応援する活動を行います。第1弾の事業として、那覇市公園管理室や森の家みんみんと協働で市民参加型ピオトープ整備事業を行っています。</p>

<p>沖縄自閉症児者親の会まいわーど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1974年</li> <li>・西岡しのぶ</li> <li>(＼)</li> </ul>	<p>〒903-0804 那覇市首里石嶺町4-373-1          沖縄県総合福祉センター 西棟 2F          電話&amp;FAX：098-995-7860          e-mail：autism.okinawa@tea.ocn.ne.jp          http://www1.ocn.ne.jp/~autism/</p>	<p>【福祉・健康】・・・P.12</p> <p>自閉症のある人を支援する団体です。保護者が中心となって活動しています。自閉症を含む発達障害全般についての勉強会、啓発活動、本人活動、社会環境の整備、保護者支援、情報提供などを行っています。啓発活動の一環として自閉症の疑似体験、発達障害のある児童の心理的疑似体験プログラムを開催しています。</p>
<p>沖縄DARCリハビリテーションセンター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1994年</li> <li>・三浦陽二</li> <li>(＼)</li> </ul>	<p>〒901-2221 宜野湾市伊佐1-7-19          電話&amp;FAX：098-893-8406          e-mail：darc-7th@nirai.ne.jp          http://ip.tosp.co.jp/i.asp?i=darc7th</p>	<p>【福祉・健康】・・・P.12</p> <p>薬物依存症からの回復と自立のための活動をしています。回復するための場、時間、仲間のモデルとNAの提案する12ステップに基づいたプログラムによって新しい生き方を方向づけ、各地の自助グループへつないでいます。またリハビリプログラムであるエイサーや薬物依存症をテーマにした寸劇を地域で紹介することで依存症の問題や薬物を防止する活動にも取り組んでいます。</p>
<p>沖縄地域環境アSEMBリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年1月</li> <li>・山崎新</li> <li>(＼)</li> </ul>	<p>〒902-0075 那覇市国場555          沖縄大学地域貢献室内          電話：090-7174-8949          FAX：098-868-7841          e-mail：arata413@dolphin.ocn.ne.jp          ブログ：http://assembly.ti-da.net/</p>	<p>【環境・自然体験】・・・P.24、25</p> <p>「出会ってつながって奪わない 地球生活の結び目づくり」をテーマに、自然と生活をつなげる活動を展開中！ エコショップの運営、環境講座や環境教育の支援、地域の自然探検ツアーやエコイベントなど、自然や人と出会い、つながる場づくりを行っています。</p>
<p>沖縄福祉教育研究会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年4月</li> <li>・比嘉信子</li> <li>(＼)</li> </ul>	<p>〒901-2104 浦添市字当山1-4-1          電話：098-878-2270 (会員8名)</p>	<p>【福祉・健康】・・・P.10、11</p> <p>障がいのある当事者が福祉教育を提供し、バリアフリーなまちづくりを提案する活動をしています。小・中・高校や公民館、企業等での福祉講話及び車椅子やアイマスク体験等を実施しています。</p>
<p>沖縄ホールアース研究所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年</li> <li>・田中啓介</li> <li>(＼、角田周一)</li> </ul>	<p>〒900-0013 那覇市牧志3-2-10 3F          那覇市NPO活動支援センター内          電話&amp;FAX：098-862-3828          e-mail：okinawa@wens.gr.jp          URL「沖縄ホールアース」で検索</p>	<p>【環境・自然体験】・・・P.25～27</p> <p>企業や行政、市民の皆様との協働により、持続可能な社会づくりに貢献する環境コーディネーター組織。次世代の環境リーダーの育成、温暖化や地産地消に関する普及啓発活動、農商工連携の体制構築などをテーマにした人材育成・地域づくり・きっかけづくりを展開しています。</p>

【団体名】 ・設立年 ・代表者 (担当者)	【連絡先】 住所／電話／FAX／e-mail／HP (会員数)	【活動分野】 …掲載している分野名とページ 団体や活動の内容を紹介しています。
<b>沖縄リサイクル運動市民の会</b> ・1983年10月 ・古我知浩 (福岡智子)	〒903-0805 那覇市首里鳥堀町4-44-1 電話：098-886-3037 FAX：098-886-3001 URL：http://www.ryucom.ne.jp/users/kuru2/	<b>【環境・自然体験】 …P.25</b> 「物を大切にるところから心の豊かさを取り戻そう！」エコロジカルな市民社会の構築を目指し、誰もが気軽に参加できる場とシステムを提案し、常に新たな試みを繰り返しながら活動を展開しています。環境保全、市民活動、環境教育、環境にも人にもやさしいオーガニック商品の販売、自治体からの啓発事業・計画策定事業、途上国の3R啓発事業の支援も行っています。
<b>おしゃべりMUSIC オフィス</b> ・2004年4月 ・新垣佳世子 (〃)	〒903-0823 那覇市首里大中町1-52 電話 & FAX：098-887-7994 (会員50名)	<b>【文化・芸術】 …P.29</b> 沖縄県立芸術大学卒業後、大学院を修了したメンバーが中心の音楽創造集団です。プロの演奏家による「学校音楽鑑賞会」を届けることによって、多感な時期の子どもたちに感動と元気を与えます。沖縄から世界の音楽を見る演奏形式で、琉球伝統芸能に西欧クラシック音楽を織り混ぜたプログラムを提供しています。
<b>C A P いしがき</b> ・2002年8月 ・城所望 (館田真由美)	〒907-0001 石垣市大浜3-1-1F (げんきキッズ気付) 電話：0980-88-6286 電話&FAX：0980-88-8670 (会員20名)	<b>【人権・コミュニケーション】 …P.17</b> 子どもたちが暴力の被害者にも加害者にもならず、安心して暮らせるよう、大人と子どもに人権教育に取り組んでいます。子どもたちの力を信じ自尊心を育むこと、暴力を防止する理念や知識、技術を伝えています。暴力とは人権が奪われること、大人も子どもも自分や人の人権を尊重し守ることができることを楽しく実践的に学ぶ教育プログラム(ワークショップ)を提供しています。
<b>佐敷干潟と遊び学ぶ しあわせまねきの会</b> ・2001年9月 ・平田美智子 瀬底あけみ (古謝久子)	〒901-1414 南城市佐敷字津波古224 古謝方 電話&FAX：098-947-6581、090-7587-7415 e-mail：siawasemaneki@v.email.ne.jp http://www.ne.jp/asahi/siawasemaneki/sasaki/ (会員45名)	<b>【環境・自然体験】 …P.23</b> 栄養が豊富で波がおだやかな干潟は、稚魚や稚貝を育てる海のゆりかごであり、渡り鳥の休息地でもあります。浄化作用もあり、近年その重要性が見なおされつつあります。佐敷干潟にどんな生物がいて、どのように暮らしているのか、遊びながら学び、知り、守っていこう、と町内外の有志が集まり、干潟の観察会や写真展、クリーン活動など干潟の保護に取り組んでいます。
<b>しかたに自然案内</b> ・2003年1月 ・鹿谷麻夕 (〃)	〒901-0603 南城市玉城字百名1147-502 電話&FAX：098-948-1417 e-mail：shika@tedako.net URL：www.shikatani.net/	<b>【環境・自然体験】 …P.22、23</b> 海洋生物学の研究に携わってきた経験と専門性を生かし、県内各地で海の自然観察会や環境教育を行っています。主なテーマは海の生態系、海や地域の自然と人とのつながり。観察会や学習会、講演などは、学校や対象グループの目的に応じてその都度内容を相談し作り上げていきます。

<p><b>ハンセン病問題ネットワーク</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2002年</li> <li>・由井晶子 (長谷暢)</li> </ul>	<p>〒901-2225 宜野湾市大謝名3-7-1 電話&amp;FAX：098-890-2491 e-mail：hanetokinawa@yahoo.co.jp ブログ：http://hanetokinawa.ti-da.net/ 会員 50名</p>	<p><b>【人権・コミュニケーション】・・・P.17</b></p> <p>ハンセン病回復者への差別と偏見が残る社会の中で、その解消にむけて様々な活動を行っています。ハンセン病という特定の病気を持った人々に対し、どのように関わってきたのかという歴史的事実を通して、人権について学ぶ講演会の提案を行います。人権侵害の被害の実態を、回復者の証言を通して伝えていく講座もあります。また、ハンセン病療養所へ出向き、愛楽園の歴史を学ぶフィールドワークを通して、人権とは何かと考える学習会も企画しています。</p>
<p><b>久音(ひさね)の会</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年12月</li> <li>・久貝友子 (久貝殉子)</li> </ul>	<p>〒901-1303 与那原町字与那原86 電話：070-5813-7953 FAX：098-945-6645 (会員12名)</p>	<p><b>【芸術・文化】・・・P.29</b></p> <p>障害があっても、自分の好きな音楽で同じ境遇の人や生の音楽を聞く機会の少ない人たちに音楽の心を届けたい。楽器の素晴らしさを感じてもらいたいと活動しています。病院や施設、学校、各イベントでの演奏活動や公民館でのサークル指導を行っています。</p>
<p><b>フードバンクセカンドハーベスト沖縄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2007年10月</li> <li>・奥平智子 (〃)</li> </ul>	<p>〒901-0225 豊見城市字豊崎1-118 電話：070-5533-4787 FAX：098-856-5907 e-mail：info@2h-okinawa.org http://www.2h-okinawa.org/ http://foodbankokinawa.ti-da.net/</p>	<p><b>【福祉・健康】・・・P.12</b></p> <p>余剰食糧を無償で集め、食べ物を必要としている施設へ無償で届ける活動を沖縄県内で行っています。食べ物が捨てられてしまう背景を考え、日常でも食べ物を大切にするための提案をイベントや講座で行っています。</p>
<p><b>(特活) マングローブE E クラブ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年</li> <li>・平川節子 (〃)</li> </ul>	<p>〒904-2215 うるま市みどり町1-1-6 電話：098-974-3063 FAX：098-979-0455 e-mail：mangrove-ee@sea.plala.or.jp http://mangrove-ee.jp/index.html</p>	<p><b>【環境・自然体験】・・・P.23</b></p> <p>県内の水辺、マングローブの保全・再生活動と地域の環境学習を支援しています。うるま市州崎の海辺を拠点にヒルギの育苗や植栽活動、ミニビオトープづくり、海浜のクリーン活動や学習交流会を定期的に行っています。また、多くの方に持続可能な環境社会を知ってもらうために、「環境学習・体験活動発表会」や「マングローブ展」も行っています。</p>
<p><b>メンズリブ沖縄</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2000年</li> <li>・新垣栄 (與儀隆一)</li> </ul>	<p>〒901-0241 豊見城市豊見城1005-1-303 電話：080-3977-4841 (新垣) 090-9486-2861 (與儀) e-mail：sakae_ar@ybb.ne.jp yogi@okishakyo.or.jp (会員20名)</p>	<p><b>【福祉・健康】・・・P.17</b></p> <p>男が生きづらさを感じた時、それは「男らしさ」が原因かもしれません。男のメンツを守るために自らの命を削り、そして身近な人をも傷つけてはいませんか。メンズリブ沖縄は男たちの様々な問題について、ジェンダーにとらわれない多様な働き方が認められる社会を目指し活動することを目的に活動しています。</p>

【団体名】 ・設立年 ・代表者 (担当者)	【連絡先】 住所／電話／FAX／e-mail／HP (会員数)	【活動分野】 …掲載している分野名とページ 団体や活動の内容を紹介しています。
<p>N P O ヨナグニウマふれ あい広場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1992年</li> <li>・久野雅照 (中川美和子)</li> </ul>	<p>〒907-1801 与那国町与那国4022-368 D-1 電話：0980-87-2911 e-mail: markun@m1.cosmos.ne.jp</p> <p>〒901-0608 南城市玉城親慶原仲田原290 電話：090-6856-7137 e-mail: info@yonaguniума.com http://www.yonaguniума.com (HPは共通) (会員150名)</p>	<p>【文化・芸術】…P.28、29</p> <p>沖縄の在来馬ヨナグニウマの保存と活用を目的に活動しています。活用法の一つとして青少年の健全育成に重点をおき、動物介在教育・療法の可能性を探っています。乗馬はもちろん、馬のお世話などもまるごと体験できるワークショップや、馬糞堆肥を使った環境教育にも取り組んでいます。与那国島と沖縄本島に馬広場があり、与那国島の小学校では生活科や総合学習の時間に積極的にヨナグニウマを取り入れていただいています。運動会での児童による乗馬演技は昨年8回目を迎えました。</p>
<p>わくわくSTT</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年3月</li> <li>・富山嘉男 (具志悦子)</li> </ul>	<p>〒901-0401 八重瀬町字東風平442-2 電話：098-998-7573、090-4471-5030 e-mail: wako_gushi@yahoo.co.jp (会員10名)</p>	<p>【福祉・健康】…P.11</p> <p>「気づき」には「気かけ」が必要で、気かけるためには体験を重ね広い視野を持つことが大切です。それがボランティア精神の芽生えとなります。視覚障がい者のスポーツSTT（サウンドテーブルテニス）を通して、参加者同士が楽しく交流するとともに、暗闇体験で視覚障がい者の日常の一端に触れる機会を作り、子どもたちの心に残る体験学習の一翼を担うことを目的に、視覚障がい者と晴眼者が一緒に活動しています。</p>
<p>ONEネットワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1995年4月</li> <li>・山本隆 (〃)</li> </ul>	<p>〒901-1117 南風原町津嘉山1108-1-3-A 電話：070-5698-2578 FAX：098-888-1499 e-mail: bakabon@cosmos.ne.jp http://www.cosmos.ne.jp/~onenet/</p>	<p>【環境・自然体験、文化・芸術】…P.27、30</p> <p>少年期は、体験、経験で芽生える時期です。昔遊びや自然体験を通して人に入れてもらうことや、人に認められることや、ケンカして仲直りすることや、我慢することを覚えます。思春期、青年期の問題にも大きく関わっています。ONEネットワークは学校や、PTA、児童館、公民館で昔遊びの実践で伝えたり、子どもの居場所づくりを援助しています。</p>
<p>キリスト教学院大 学内 NGO ONE LOVE</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2005年10月</li> <li>・担当：松本</li> </ul>	<p>〒903-0207 西原町翁長777 沖縄キリスト教学院大学 国際平和文化交流センター内 電話：090-6637-4309 e-mail: onelove_okinawa@yahoo.co.jp http://www.onelove-okinawa.com/</p>	<p>【国際協力】…P.21</p> <p>ONE LOVEは、フィリピン、ネパールを対象にした自立を目指した草の根支援活動を展開しています。県内では、小・中・高での教育現場で出前授業を通し、生徒たちの国際理解を高めるための活動も行っています。</p>

# 市町村社会福祉協議会のボランティアセンターを活用しよう!

社会福祉協議会では、学校や地域でボランティア活動や福祉教育をすすめています。ボランティアセンターを設置していたり、設置がなくてもボランティアや福祉教育の担当が相談にのっています。特に、地域福祉については専門領域ですので、どうぞご利用ください。

## ★こんなサポートがあります

全部の市町村社協で必ずやっている情報ではないので、P.38-39を見て、直接各市町村社協にお問合せください

### 1 資金面でのサポート (学校向け)

子どもたちのボランティア活動や福祉教育をすすめるために、学校へ助成金を出して「推進する学校」として指定し資金面での支援を行うとともに、取り組み方や企画の相談にもなっています。助成方法（応募式なのか、全校対象なのか）や、対象となる活動内容や助成額などは、市町村社協によって違いがあるので、所在地の市町村社協にお問合せください。

例えば・・・

- うるま市社協：保育園(所)、幼稚園、小、中、高校を対象に募集。ベーシックコース（年間2万円）、ステップアップコース（年間10万円）あり。選考委員会で応募企画を選考し指定しています。
- 那覇市社協：教育委員会と連携し、那覇市内の学校とともに『ボランティア学習推進協議会』を設置し経費面や取り組み方、機材の貸出など総合的な支援を行っています。

### 2 出前講座

ボランティア活動、福祉や障がい理解についての疑似体験やワークショップ、講話などを行います。地域の福祉にかかわる情報や、当事者の方々への支援のなかから培った思いなどを伝えることもできます。出前できる講座は、それぞれの社協で少しずつ違います。また、学校と相談しながら、内容を企画する場合があります。代表的なものとしては、車いす体験、アイマスク体験、高齢者疑似体験・・・その他、点字学習、手話体験、『障がい理解ワークショップ』、ボランティア入門講座などを提供しているところもあります。

例えば・・・

- 名護市社協：上記以外にも「車イスサッカー」「盲人卓球」「学校周辺や街のバリアフリー調べ」も行っています。
- 読谷村社協：疑似体験のみで終わるのではなく、当事者の方の講話と組み合わせています。

### 3 子ども向け講座やイベント

夏休みや冬休みなどに、子ども達向けに、ボランティア体験や福祉体験、交流事業、ワークキャンプを開催しています。地域で福祉やボランティアに関わる方々との出会いは刺激的です。また、学校の授業や部活動とは違う雰囲気や、「やってみたいな」と参加してきた同年代の他の子どもたちとの出会いもあり・・・。自分の世界を広げるチャンスです!

例えば・・・

- 那覇市社協：「なはサマーボランティア」「歳末お掃除隊」 浦添市社協：「ボランティアワークキャンプ」(一泊)
- 南城市社協：「子どもまつり」 伊平屋村社協：「高齢者向け宅配弁当サービス」
- 宜野座村社協：「介護体験、デイサービス利用者とのふれあい交流」
- 沖縄市社協：高校生を対象に、知的障がいを持つ児童とのキャンプや自然体験学習

### 4 先生への研修

学校で子どもたちとボランティア活動や体験学習、福祉教育をすすめていくために、教職員を対象に研修会や情報交換会を開催しています。夏休みにあわせて開催したり、教育委員会と協働で実施したりさまざまです。

例えば・・・

- 南風原町社協：教育委員会と共催で「初任教諭」と「10年経験教諭」の合同研修会を毎年夏休みに行っています。中高校生の『10代のボランティア研修会』の報告会もあわせて開催し、先生達に子どもたちの姿もみてもらうなど工夫を凝らした企画を行っています。

### 5 機材の貸出

ボランティア活動や体験学習、福祉教育を行う際に必要な機材を貸し出しています。車イス、アイマスク、高齢者疑似体験セット、視聴覚（ビデオ・DVD）教材などがあります。

## ■ 沖縄県内の市町村社会福祉協議会一覧表

①～⑤については、P37も参照下さい

	社協名	〒	住所 (市町村名は省略)	電話番号	F A X	①助成金 (学校向け)	②出前講座	③子ども向け講座や イベント	④先生への研修	⑤機材の貸出
1	国頭村	905-1411	辺土名 1709	0980-41-5231	0980-41-5749		●			●
2	大宜味村	905-1303	喜如嘉 320	0980-44-3800	0980-44-3803	● 全校	●			●
3	東村	905-1204	平良 767	0980-43-2544	0980-43-2548		●			●
4	今帰仁村	905-0401	仲宗根 230-2	0980-56-4742	0980-56-4014	● 中学校	●	● 夏休み		●
5	本部町	905-0212	大浜 881-4	0980-47-6655	0980-47-6656		●		●	●
6	名護市	905-0014	港 2-1-1	0980-53-4142	0980-53-6042		●			●
7	恩納村	904-0411	恩納 6302	098-966-1193	098-982-3380	● 希望校	●	●		●
8	宜野座村	904-1303	惣慶 1898	098-968-8979	098-968-5884	● 全校	●	● 夏休み		●
9	金武町	904-1201	金武 1842	098-968-3310	098-968-6021		●	● 夏休み		●
10	伊江村	905-0503	川平 364-1	0980-49-5104	0980-49-3941			● 夏・冬休み		●
11	伊是名村	905-0603	仲田 1163	0980-45-2292	0980-45-2192	● 希望校	●			●
12	伊平屋村	905-0703	我喜屋 300	0980-46-2477	0980-46-2340	● 希望校	●	● 夏休み		●
13	うるま市	904-2214	安慶名 488	098-973-5459	098-974-5306	● 応募・選考	●	● 夏休み	● 夏休み	●
14	沖縄市	904-2171	高原 7-35-1	098-933-1100	098-933-1919		●	● 夏休み	● 夏休み	●
15	読谷村	904-0301	座喜味 2975	098-958-2939	098-958-2189	● 全校	●	● 夏休み	● 夏休み	●
16	嘉手納町	904-0204	水釜 447-1	098-956-1177	098-957-2530	● 全校	●	● 夏休み		●
17	北谷町	904-0105	吉原 26-6	098-936-2940	098-936-2989	● 希望校	●		●	●
18	北中城村	901-2303	仲順 451	098-935-4520	098-935-4603	● 希望校	●	● 夏休み		●
19	中城村	901-2404	添石 236	098-895-4081	098-895-4180	● 希望校	●	● 夏休み		●
20	宜野湾市	901-2205	赤道 2-7-1	098-892-6525	098-892-0843	● 応募・選考	●	● 夏休み		●

この情報は2009年1月現在のものです。詳細や事業の継続については、各社協へ確認ください。

	社協名	〒	住所 (市町村名は省略)	電話番号	F A X	①助成金 (学校向け)	②出前講座	③子ども向 け講座や イベント	④先生へ の研修	⑤機材の 貸出
21	西原町	903-0111	与那城 135	098-945-3651	098-946-6777	● 希望校	●	● 夏休み		●
22	浦添市	901-2103	仲間 1-10-7	098-877-8226	098-875-1613	● 応募・選考	●	● 夏休み		●
23	那覇市	901-0155	金城 3-5-4	098-857-7766	098-857-6052	● 応募・選考	●	● 夏休み	●	●
24	豊見城市	901-0212	平良 467-4	098-856-2782	098-856-2774	● 全校	●	● 夏休み	● 夏休み	●
25	糸満市	901-0362	真栄里 857	098-994-0563	098-994-0562	● 全校	●	● 夏休み		●
26	八重瀬町	901-0401	字東風平 1318-1	098-998-4000	098-998-8999	● 希望校	●	● 夏休み		●
27	南城市	901-1206	大里字仲間 918	098-882-8861	098-882-8862	● 希望校	●	●		●
28	与那原町	901-1302	上与那原 16-2	098-945-3016	098-946-7970	● 全校	●	● 夏休み		●
29	南風原町	901-1116	照屋 1	098-889-3213	098-889-6269	● 全校	●	● 夏休み	● 夏休み	●
30	久米島町	901-3108	比嘉 97-4	098-985-7880	098-896-8061	● 希望校	●	●		●
31	渡嘉敷村	901-3501	渡嘉敷 747	098-987-3271	098-987-3271		●	● 夏休み		●
32	座間味村	901-3402	座間味 109	098-987-2084	098-987-2098		●	● 夏休み		●
33	粟国村	901-3702	東 367	098-988-2045	098-988-2045					
34	渡名喜村	901-3601	渡名喜 1935	098-989-2113	098-989-2140		●			●
35	南大東村	901-3804	南 144-1	0980-22-2226	0980-22-2390			● 夏休み		●
36	北大東村	901-3902	中野 212	0980-23-4103	0980-23-4103					
37	宮古島市	906-0106	城辺字西里添 788-3	0980-77-8661	0980-77-8663	● 希望校	●	● 夏休み	● 夏・冬休み	
38	多良間村	906-0602	仲筋 160	0980-79-2679	0980-79-2314	● 全校	●			●
39	石垣市	907-0004	登野城 1357-1	0980-84-2211	0980-84-1199		●	●		●
40	竹富町	907-0012	美崎町 16-6	0980-84-3302	0980-82-3002					●
41	与那国町	907-1801	与那国 255	0980-87-2471	0980-87-2488	● 全校		● 夏休み		●

豊かな市民性を育むために

# 子どもたちのボランティア活動をすすめるガイド

沖縄県ボランティア・市民活動支援センター  
県ボラセン Presents

2009年3月発行

発行 社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会  
沖縄県ボランティア・市民活動支援センター

印刷 文進印刷

## 沖縄県ボランティア・市民活動支援センターとは…

さまざまな分野でのボランティアやNPOなどの市民活動を推進・支援することを目的に、沖縄県社会福祉協議会が運営しています。ボランティアやNPOなどの市民活動は、社会の抱える課題に、市民が主体的に取り組む多様な活動です。センターでは、こうした活動を支援するために、市町村のボランティアセンターや広域のボランティア・市民活動団体、行政、企業、教育機関、研究者などと連携しながら、市民一人ひとりの自己実現やよりよい生き方のできる社会の実現をめざしています。ボランティアの『ボラ』、支援センターの『セン』をとり、『ボラセン』『県ボラセン』と呼んでください！

## 県ボラセンには、こんなサポートがあります！

### 1 ボランティア活動や体験学習、福祉教育を応援します

### 2 講座・研修会を提供します P.9 ①②③ P.11 ⑤

- ①ボランティア活動に取り組みたい
  - ・学校や団体の取り組み方、子どもたちへのサポートについて
  - ・子どもたち向けの講座
- ②ボランティアを受け入れたい
  - ・学校・団体への受け入れ体制づくり講座

### 3 ボランティア活動、NPOの情報を提供します

### 4 お気軽にご相談ください

□所在地：〒903-8603 沖縄県那覇市首里石嶺町 4-373-1

(沖縄総合福祉センター東棟 2F)

□連絡先：電話：098-884-4548 (ボラセン直通)

098-887-2000 (県社協)

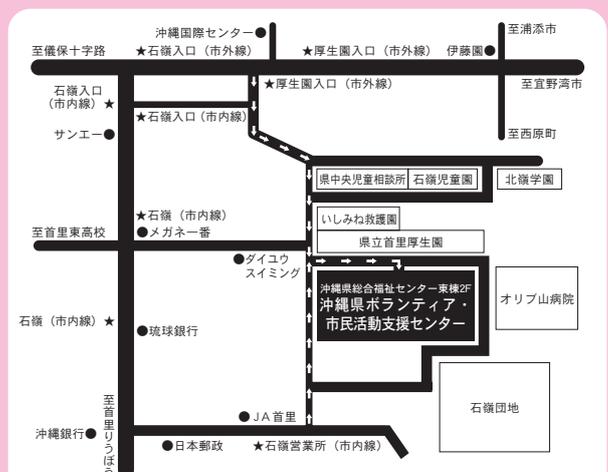
FAX：098-884-4545

□e-mail：vol@okishakyo.or.jp

□ホームページ：ボランチュネっと：http://volunchu.net

□沖縄県社会福祉協議会のホームページ：http://www.okishakyo.or.jp

□ボラセンの開館時間：月～金/午前9時～午後5時



★印はバス停留所

◎那覇交通市内線。9番、17番を利用。  
石嶺営業所で下車（徒歩で約5分）

◎那覇交通市外線。97番琉大線、125番知花（首里経由）線を利用。「厚生園入口」停留所で下車、南方へ約800m（徒歩で約7、8分）